

(案)

大垣市教育振興基本方針
(中間まとめ)

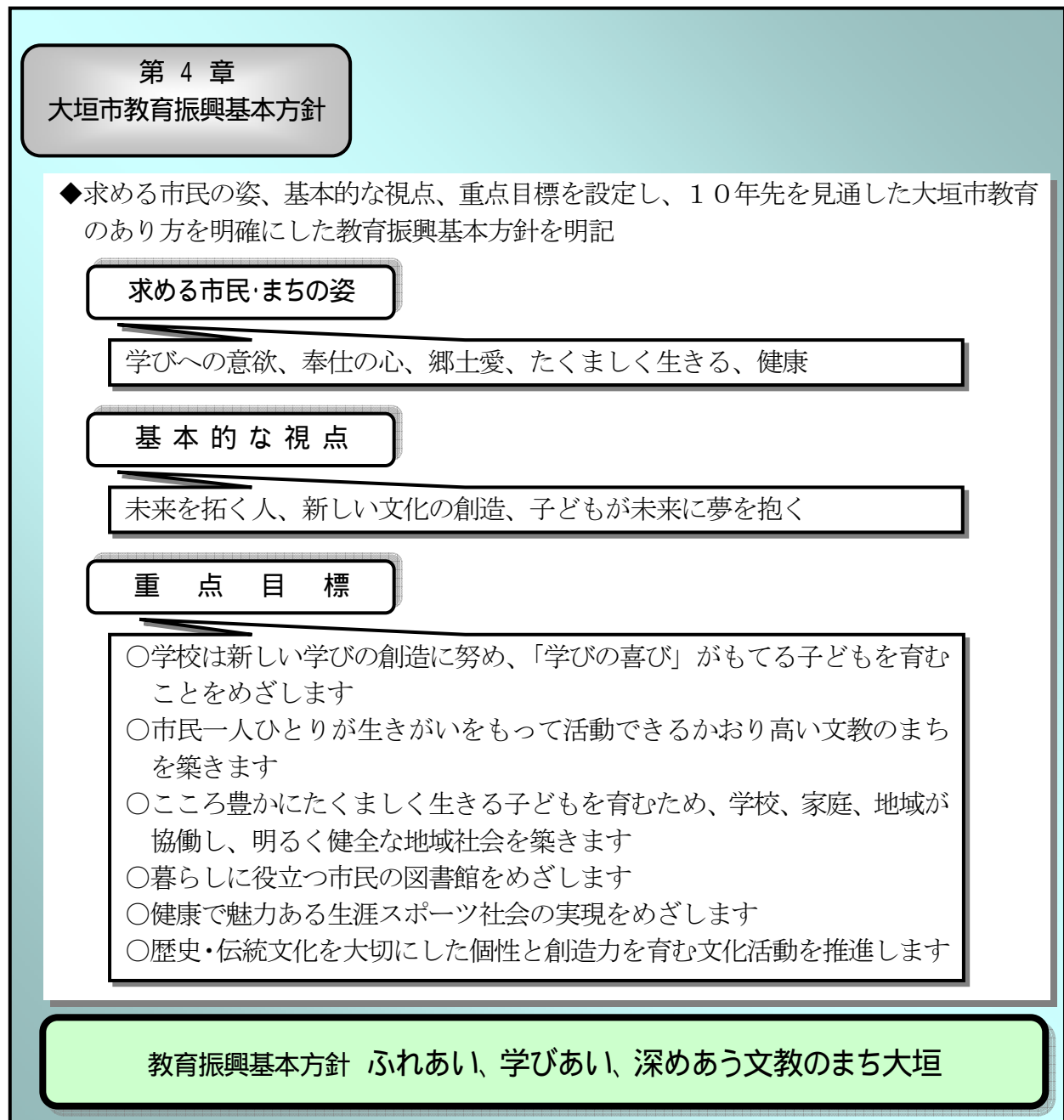
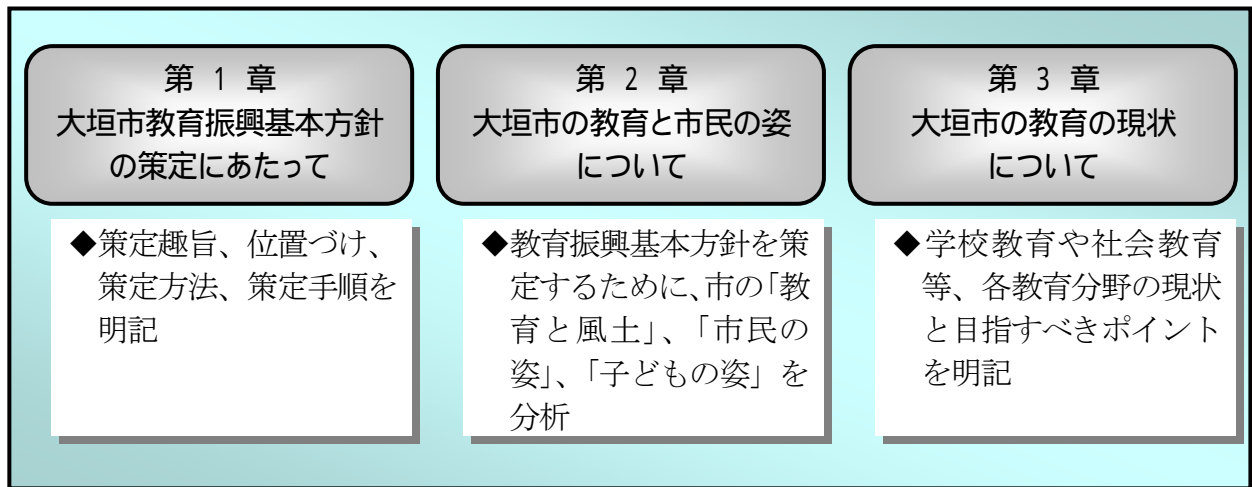
ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣

学びの喜びがもてる子どもを育みます
生きがいをもって活動できるかおり高い文化のまちを築きます
こころ豊かにたくましく生きる子どもを育みます
学校、家庭、地域が協働し、明るく健全な地域社会を築きます

平成 21 年 11 月

大垣市教育委員会

大垣市教育振興基本方針の構成



目 次

第1章 大垣市教育振興基本方針の策定にあたって

1. 策定趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 策定方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
4. 策定手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 大垣市の教育と市民の姿について

1. 教育と風土・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 市民の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3. 子どもの姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第3章 大垣市の教育の現状について

1. 学校教育分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
2. 社会教育分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
3. 図書館分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
4. 生涯スポーツ分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
5. 芸術文化分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
6. 文化財分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
7. 教育行政分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

第4章 大垣市教育振興基本方針

1. 基本方針の骨子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
2. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
3. 市民の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
4. 基本的な視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
5. 重点目標と分野別振興計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
6. 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

第1章 大垣市教育振興基本方針の策定にあたって

1. 策定趣旨

平成18年12月に教育基本法が改正され、新しい時代の教育理念が明示されるとともに、教育基本法第17条2項の規定に基づいて、地方公共団体には、地域の実情に応じた教育振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならないと規定された。

国においては、平成20年7月に「教育立国」を目指した「教育振興基本計画」が閣議決定され、改正教育基本法の理念の実現に向け、今後おおむね10年先を見通した教育の目指すべき姿と、平成20年度から24年度までの5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策が示された。

また、岐阜県においては、平成19年6月、各界の有識者からなる「明日の岐阜県教育を考える県民委員会」を設置し、岐阜県の新しい教育ビジョンの策定に向けた政策論議がスタートし、平成20年12月に今後の岐阜県教育が目指すべき基本的方向性を明らかにした基本理念・基本目標などが「岐阜県教育ビジョン」として策定された。

そこで、本市においてもこうした国や県の動向を踏まえ、「大垣市第五次総合計画」を上位計画として大垣の地域性、独自性をもたせながら、今後10年先を見通した大垣市の教育の在り方と、教育行政を進めるための『道しるべ（指針）』として大垣市教育振興基本方針を作成するものである。

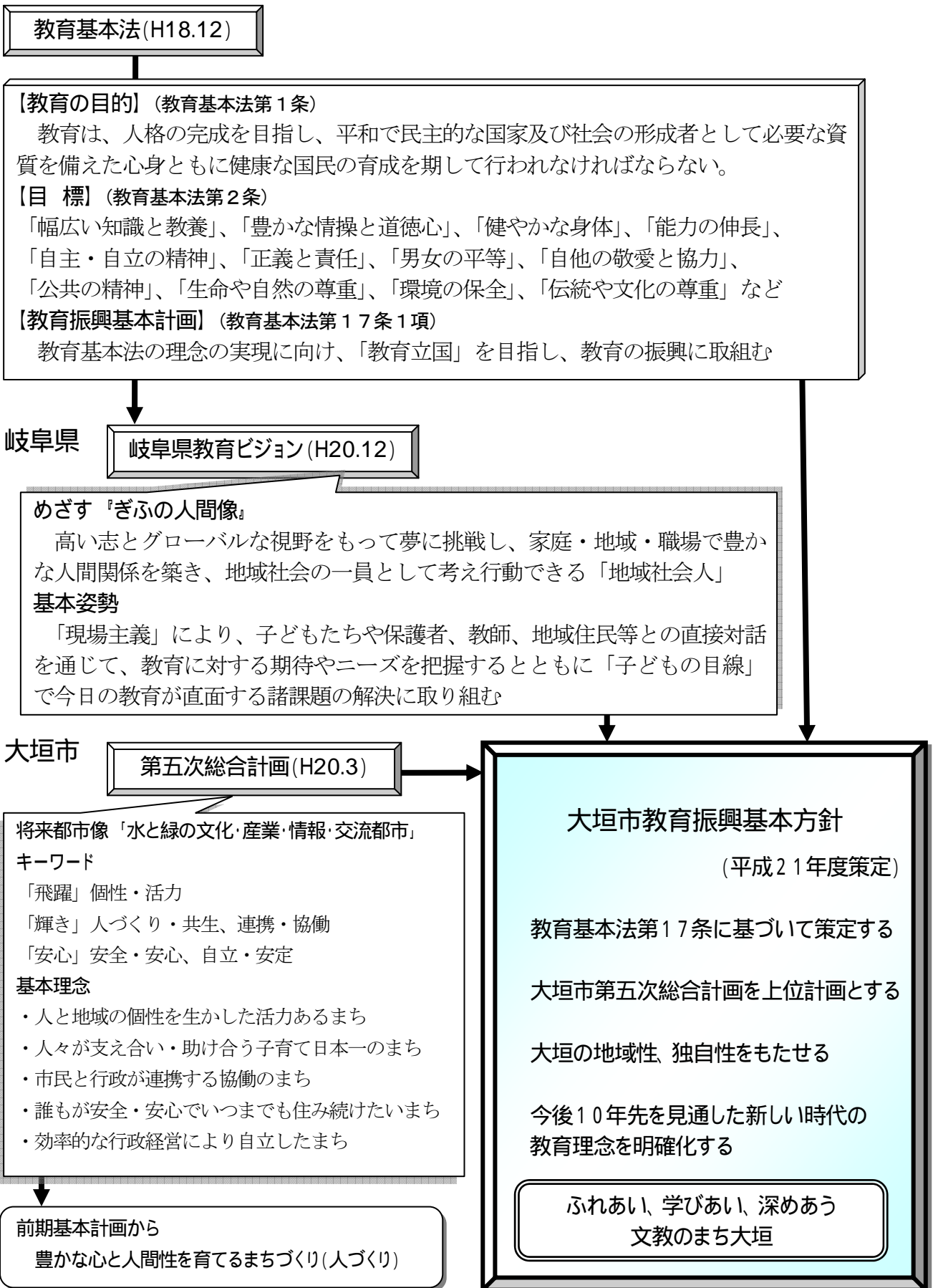
2. 位置づけ

- 教育基本法第17条に基づいて策定する大垣市の教育振興基本計画。
- 「大垣市第五次総合計画」を上位計画とする教育分野の総合的な計画とし、より具体的な目標などを示すもの。
- 教育各分野の振興計画との整合・連携をはかり、方向性を示すもの。

3. 策定方法

- 学識経験者、学校教育・社会教育・青少年育成・体育振興・文化振興・図書館関係者、市民委員（公募）で策定委員会を組織する。
- 施策の立案や実施におけるプロセスの透明性を確保するとともに、幅広い意見を得るため、教育に関する市民アンケート調査、パブリックコメントを実施する。

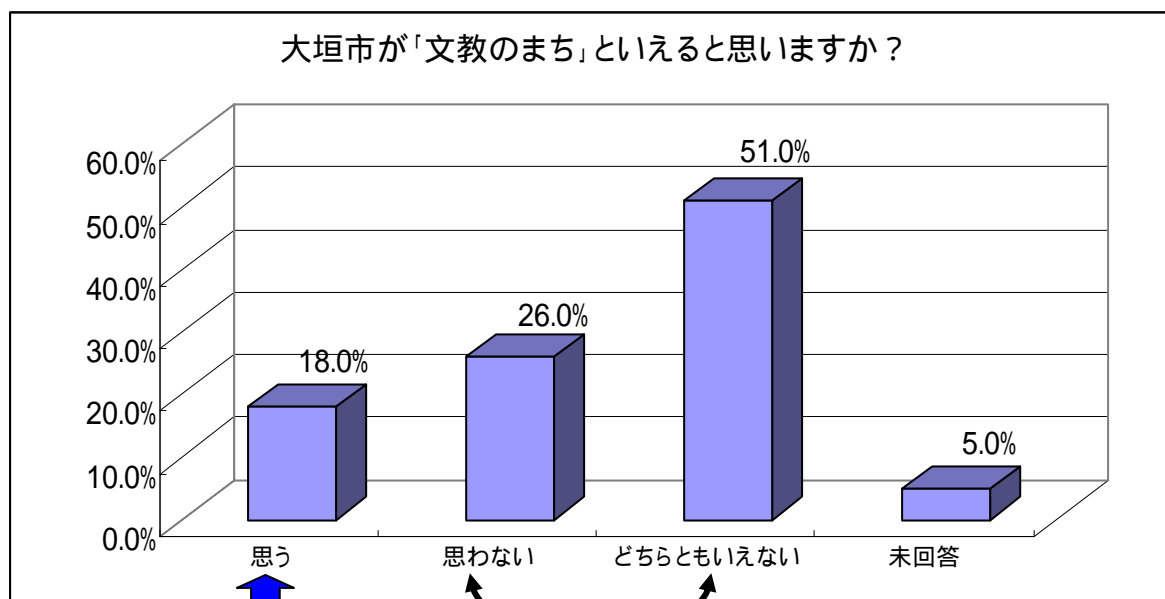
4. 策定手順



第2章 大垣市の教育と市民の姿について

1. 教育と風土

- 大垣は、初代大垣藩主戸田氏鉄公の教育や文化を大切にする気風を歴代藩主が受け継ぎ、特に、八代藩主戸田氏庸が幕府の昌平坂学問所にならい藩校「学問所」を開くなど、一貫した文教尊重の施策に支えられ、文教のまちとして大きく発展してきました。
- 明治の初めには日本で最初の博士を次々に生んだ地であり、「学問のまち」「博士のまち」として有名で、また、鉄道など様々な分野で日本の近代化や発展に活躍された人も数多く輩出したことで知られています。
- こうしたことから、大垣は今日まで長年にわたり教育を大切にする土壌を培い、「文教のまち大垣」といわれてきました。
- しかしながら、大垣が「文教のまち」であるということが、市民アンケート結果を見る限り、市民の間に広く浸透していない状況にあります。
- 今後、本市が「文教のまち」としての伝統を受け継ぎ、さらに発展していくためには、市民の心に響くような教育施策や環境整備を地道に進め、普及啓発をしていくことが求められます。



「思う」と回答したうちの約67%が50歳以上と、年齢が高くなるほど大垣市を「文教のまち」と思う割合が高くなっている。

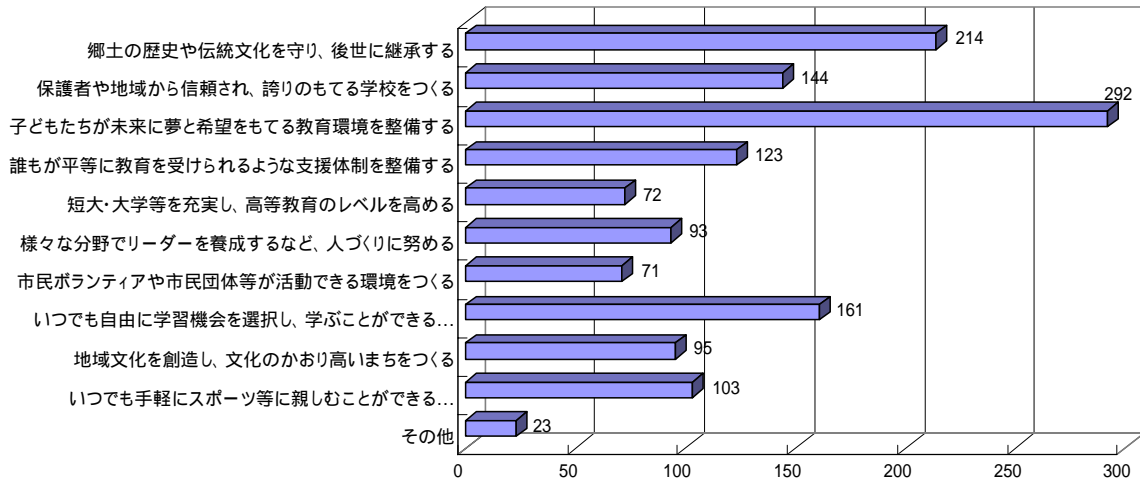
⇒ 77%の人が「文教のまち」と思っていない。

(平成21年6月実施「大垣市教育振興基本方針策定のための市民アンケート調査」(以下「教育方針市民アンケート」という)から)

「文教のまち」を実感できる施策や環境整備が必要であり、特に、若年層に対する啓発が大切である。

大垣市が今後「文教のまち」として発展していくためには、特に何を大切にしたらよいと思いますか？

(単位:人)



大垣市が今後「文教のまち」として発展していくためには、特に何を大切にしたらよいと思いますか？の問いの上位3つは、「子どもが未来に夢と希望をもてる教育環境を整備する」「郷土の歴史や伝統を守り、後世に継承する」「いつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができる生涯学習社会をつくる」となっている。

(教育方針市民アンケートから)

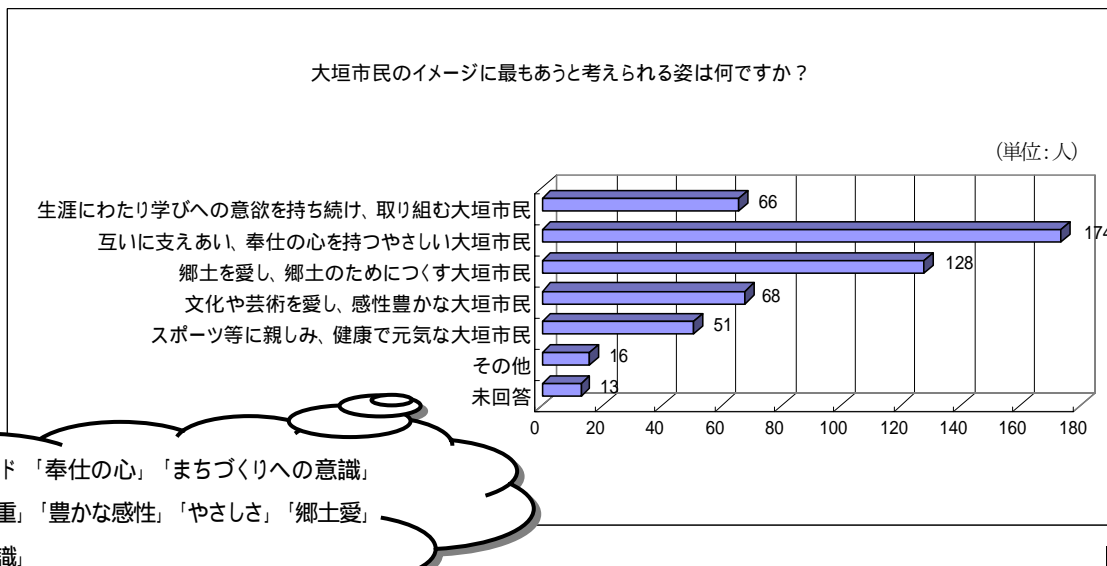
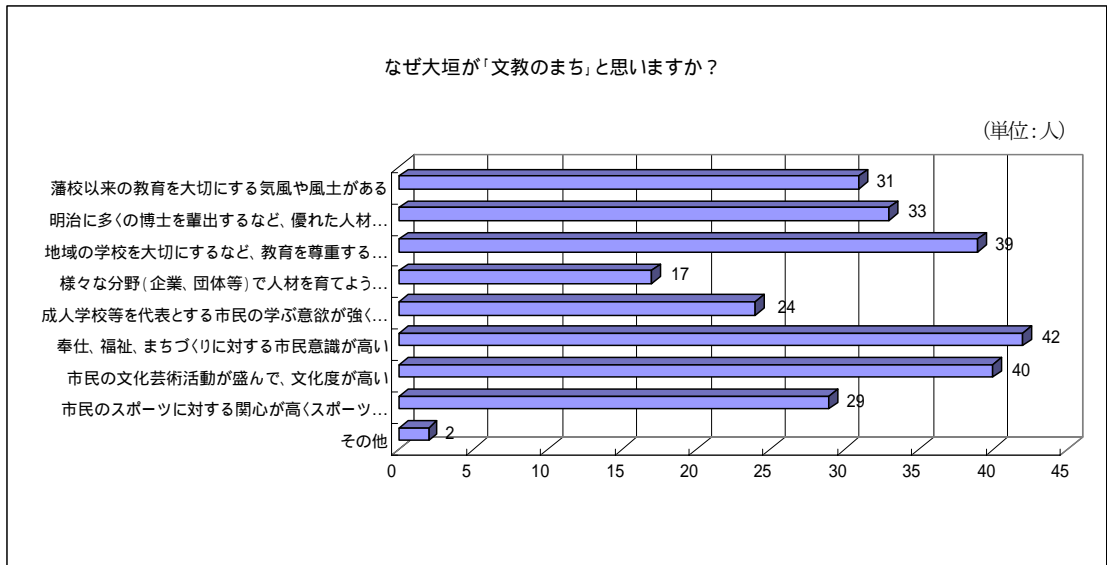
地域・まちづくり活動について、今後参加してみたいとしているのは、「生涯学習、文化、スポーツ活動」が最も多く、次いで「福祉活動」「環境保護活動」「地域の防災・防犯活動」と続いている。

(平成18年6月実施「大垣市第5次総合計画策定のための市民アンケート調査」から)

☞ 文教のまちとして大切にしていくことは、「子どもが未来に夢と希望をもてる社会」「郷土の歴史や伝統の継承」「生涯学習社会(生涯学習、文化スポーツ活動が手軽にできる社会)の創出」などである。

2. 市民の姿

- 大垣市民の学習活動や奉仕活動等に対する意欲は高く、芸術文化活動をはじめ、スポーツに親しむ市民も多く見られます。その要因（原動力）として、本市の社会教育面における特徴といえる長い歴史をもつ市立図書館や成人学校と、市民力を結集してつくられた体育連盟、文化連盟、文教協会などの存在が挙げられます。
- まず、図書館は明治44年に市民の寄付により閣東小学校内に創設され、大正5年には大垣公園内に移転し、昭和4年に個人の寄付により藩校跡地に近代的図書館が建築されました。昭和55年に市制60周年記念としてスイトピアセンター内に新築し、藩政資料や藩校で使われた教科書を所蔵し、「文教のまち大垣」を市民に継承しています。
- また、成人学校は、昭和26年5月に「学ばんとするすべての人のために」と、第1回を開講して以来、今日まで58年にわたり、その数139回におよび、数多くの市民の学びの意欲の喚起とその手助けをしてきました。これらの受講生等の地域への広がりが、昨今の地区センターまつり等の盛り上がりに見られるように、市民の生涯学習活動の成果の現れであるといえます。また、かがやきライフタウン構想の礎の一翼を担ってきたともいえます。
- 一方、市民スポーツを普及振興し、市民の体力向上を図ると共に、地域社会の発展に寄与することを目的に体育連盟が昭和26年5月に、また、教育尊重の伝統にかんがみ、本市の教育の刷新充実を図るため文教協会が昭和39年11月に、さらには、大垣地域における芸術文化事業の啓発・育成に努め、市民文化の振興に貢献するため文化連盟が昭和56年11月に、それぞれ設立され、今日の本市のスポーツ・教育・文化の発展に大きく貢献をしてきました。
- 特徴は、それぞれの関係者だけでなく、多くの市民や市民団体、加えて企業および企業人が積極的に参画し、教育や文化、スポーツの振興に対する大きな力となっている、これが他都市にはない大垣の誇るべき風土のひとつであるといえます。
- また、大垣の市民性は、市民アンケートや人国記等によれば、『奉仕の精神、共同意識が強い』『郷土愛が豊か』『清らかさ、純真さ、やさしさ』がうかがえます。さらには、地域の学校を大切にし、地域づくりに理解があり、芸術文化への関心が高い市民性であるといえます。
- こうした大垣人のよき風土や市民性をさらに伸長していくことが求められ、そのための大きな役割を担うのは教育であり、教育の使命ともいえます。
- そこで、「学びへの意欲」や「奉仕の心」を大切にし、「かおり高い文化」や「郷土を愛する心」を育て、「スポーツ等を通して健康な人」であふれるまち大垣を創造することで、大垣市の教育力の再生と「文教のまち大垣」の復活をめざしていく必要があります。



キーワード 「奉仕の心」「まちづくりへの意識」
「教育尊重」「豊かな感性」「やさしさ」「郷土愛」
「共同意識」

◇吉岡勲氏が「岐阜県人」のなかで、『美濃・飛騨はそれぞれ一つの単位としての歴史が長く、独自の性格をつくってきた。早い話が人国記は次のようだ。(中略)「美濃は全体として意地が水晶のようにきれいだ。水晶は磨かなければ光らないが、美濃は根性が良いので、垢を早くけずり落として、よく道理に従う。しかし美濃を東西の二つに分けていえば、西濃は、滑らかそうに見える反面、徹底するところが少なく、言葉は風流である。(以下略)』と述べている。 (「岐阜県人」(新人物往来社)から)
(※人国記:北条時頼の作品といわれている)

◇『美濃の大垣二度より三度、来れば住みたい、暮したい、アレサ水の都は意気のまち』…大垣小唄の文句のとおり、まったく大垣は暮らしよいところであることは間違いないようである。それは官吏や警察官などで転々と勤め先を変った果てに大垣を永住の地と定めて住み着く人が随分多いように思うのである。 (「改定復刻 大垣ものがたり」社団法人大垣青年会議所発行から)

☞ キーワード「純真さ」「すなおさ」「人情味が深い」

参考
「飛騨は律儀で愚だ。その愚かさぶりには、日本広しといえども、これ以上の国はないと決め込んでいる点でも分かる。井の中の蛙といえよう。ただ生まれつきは鉄石の性と言ってよい」 (「岐阜県人」(新人物往来社)から)

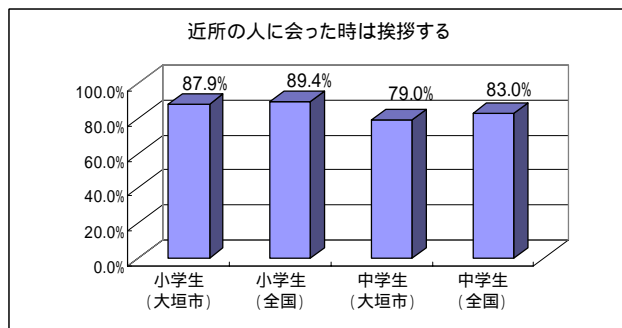
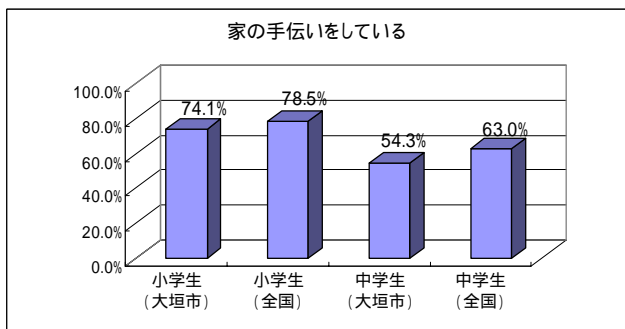
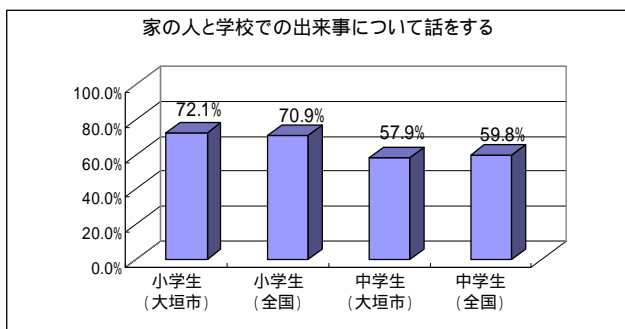
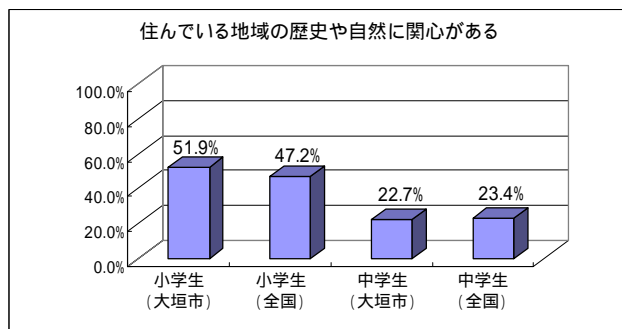
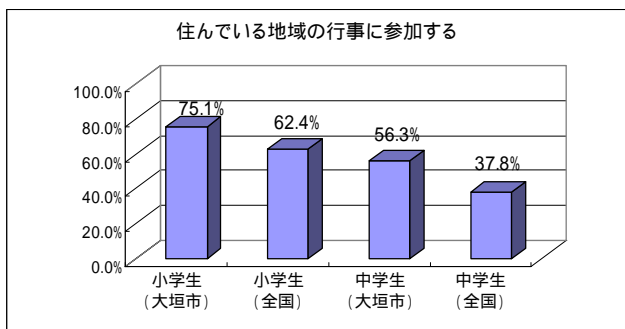
3. 子どもの姿

○近年、少子高齢化、高度情報化、国際化の進展や経済的な豊かさの実現など、社会が成熟する中で、家庭や地域の教育力低下の問題、人間関係の希薄化が指摘されています。また、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、いじめや問題行動など、全国的に見ても多くの面で子どもを取り巻く課題もあります。

○大垣の子どもの基本的な生活状況は、平成21年の全国学力・学習状況調査等から、次のことが浮かんできます。

《家庭や地域とのかかわり》

○「住んでいる地域の行事に参加する」「住んでいる地域の歴史や自然に関心がある」は、ほぼ全国平均を上回っており、地域とのかかわりが強く現れています。しかし、「家の人と学校での出来事について話をする」「家の手伝いをしている」や「近所の人にあったときは、あいさつをする」では、全国平均を下回っており、家庭におけるかかわりや、地域の人とのかかわりが希薄になっている姿があります。



平成21年全国学力・学習状況調査から

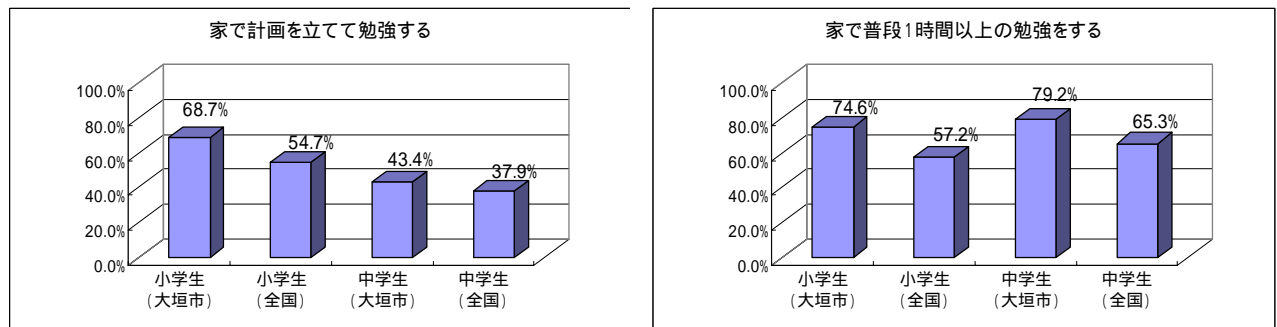
☞ 小中学生共に地域行事への参加率が非常に高く、地域社会とのかかわりが強い。

平成21年全国学力・学習状況調査から

☞ 家庭や地域の人とのかかわりが、全国と比較して若干低いですが、規範意識は概ね身につけている。

《学ぶ意欲等》

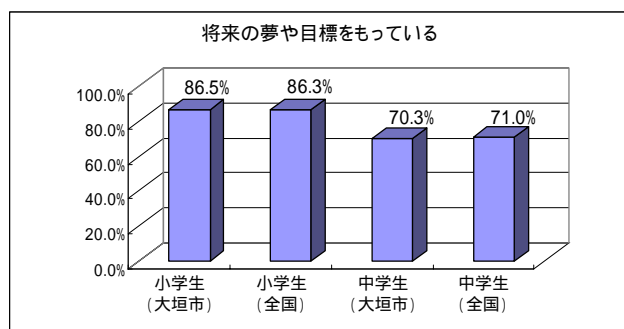
- 「家で計画を立てて勉強する」「家で普段1時間以上の勉強をする」「家で予習・復習をする」と答えた児童生徒は、全国平均を大きく上回っており、学習習慣は概ね身につけているといえます。



平成21年全国学力・学習状況調査から

- ☞ 学ぶ意欲は全国平均を大きく上回っており、学習習慣は概ね身につけている。

- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒は全国平均並みですが、小学6年生が86.5%であったのに対し中学3年生になると70.3%に下がっています。子どもたちが夢や目標をもち続けられるように、発達段階に応じた取り組みが必要です。

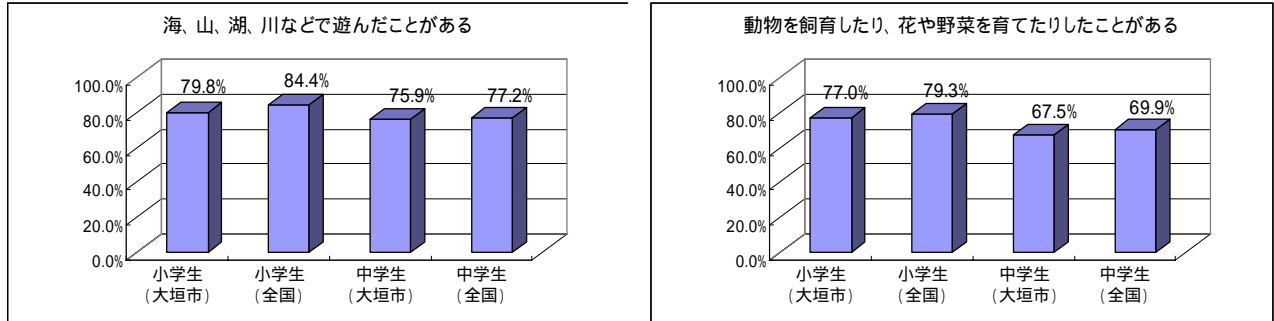


平成21年全国学力・学習状況調査から

- ☞ 小学生と比較して中学生は16.2%下がっているため、未来に夢を抱き、実現していく力を育てる教育が必要である。

《体験活動》

- 「海、山、湖、川などで遊んだことがある」「動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがある」「包丁やナイフを使って調理をしたことがある」は、いずれも全国平均を下回っており、体力・運動能力の低下が懸念されることから、自然体験や実体験をする活動等の取り組みが必要です。



平成20年全国学力・学習状況調査から

- ☞ 全国平均を若干下回っており、自然体験活動や家庭教育の充実が必要である。

◇文部科学省では、昭和60年頃から子どもの体力・運動能力の低下傾向が続くと共に、肥満などの生活習慣病の増加が深刻な社会問題となっているため、中央教育審議会答申「子どもの体力向上のための総合的な方策について」を受け、平成15年度より子どもの体力向上推進事業を実施している。

(文部科学省HP [子どもの体力向上から http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/tairyoku/1266260.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/tairyoku/1266260.htm))

子どもの体力の現状

◇文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃から現在まで低下傾向が続いています。現在の子どもの結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下回っています。一方、身長、体重など子どもの体格についても同様に比較すると、逆に親の世代を上回っています。このように、体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しているといえます。

子どもの体力低下の原因

◇子どもの体力低下の原因は、保護者をはじめとする国民の意識の中で、外遊びやスポーツの重要性を学力の状況と比べ軽視する傾向が進んだことにあると考えられます。また、生活の利便化や生活様式の変化は、日常生活における身体を動かす機会の減少を招いています。

さらに、子どもが運動不足になっている直接的な原因として、次の3つをあげることができます。

1. 学校外の学習活動や室内遊び時間の増加による、外遊びやスポーツ活動時間の減少
2. 空き地や生活道路といった子ども達の手軽な遊び場の減少
3. 少子化や、学校外の学習活動などによる仲間の減少

(子どもの体力向上HPから <http://www.recreation.or.jp/kodomo/intro/now.html>)

- ☞ 屋外で遊んだり、スポーツに親しむ機会を意識して確保するとともに、積極的に体を動かす機会を作っていく必要がある。

大垣市児童生徒の体力の実態について(平成13年度以降)

- ◇小学校男子 「握力」は、すべての学年で全国平均を下回っているが、低下状況は止まる傾向にある。
「50m走」は、すべての学年で全国平均を下回る傾向にある。
「ソフトボール投げ」は、大きな変化はみられないが、全国平均をやや下回る傾向にある。
- ◇小学校女子 「握力」は、すべての学年で全国平均を大きく下回り、差が広がっている。
「50m走」は、すべての学年で全国平均を下回っているが、差が小さくなってきている。
「ソフトボール投げ」は、どの学年も全国平均並で、大きな変化はみられない。

☞ 小学校では、1年生から学年が上がるにつれて全国平均との差が縮まっていることから、体育の授業や学校行事などで子どもの体力を高める取組みが成果をあげている。

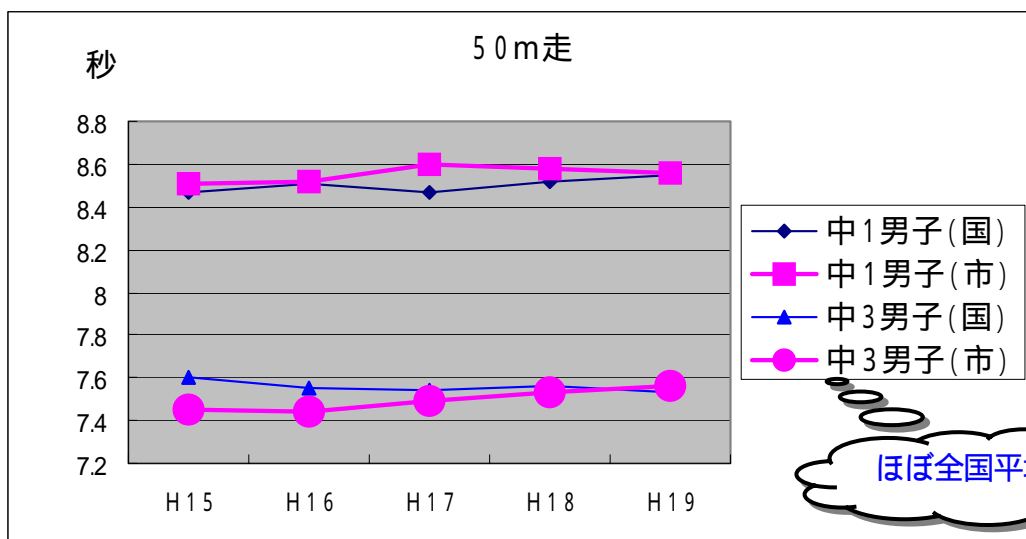
- ◇中学校男子 「握力」は、全国平均とほぼ同じであるが、近年、全体的に低下傾向にある。
「50m走」は、ほぼ全国平均並みである。
「ソフトボール投げ」は、全国平均をやや上回っている状況が、近年続いている。
- ◇中学校女子 「握力」は、低下傾向が続いていたが、全国平均並みに上昇した。
「50m走」は、毎年の変動が大きいですが、ほぼ全国平均である。
「ソフトボール投げ」は、やや全国平均を上回る傾向にある。

(児童生徒の体力調査報告書から)

☞ 中学校では、全国平均並みになっているため、中学校に入学してからの部活動の加入率が高いことや、保健体育の指導内容の工夫が大きな成果をあげている。

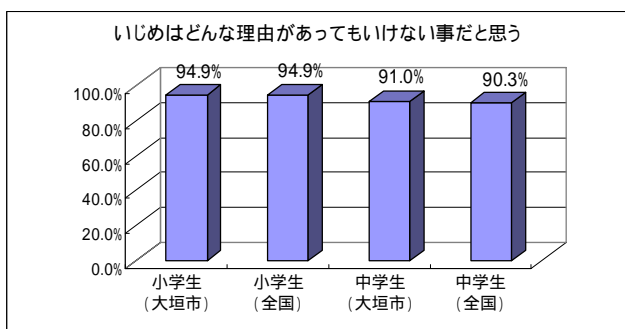
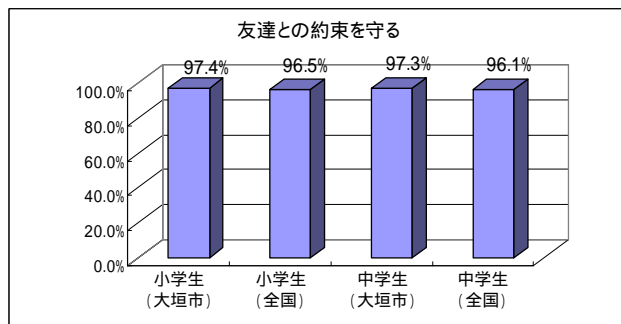
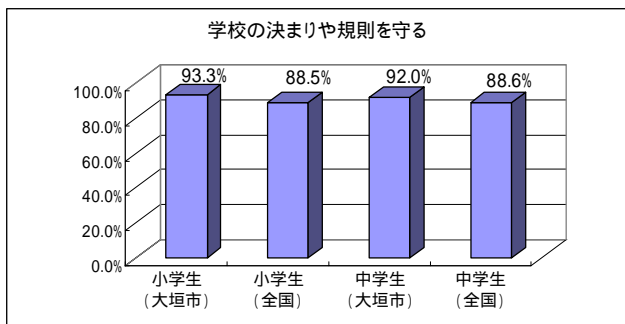
[参考:中学校男子 スポーツテスト50m走]

	H15	H16	H17	H18	H19
中1(国)	8.47秒	8.51秒	8.47秒	8.52秒	8.55秒
中1(市)	8.51秒	8.52秒	8.60秒	8.58秒	8.56秒
中3(国)	7.60秒	7.55秒	7.54秒	7.56秒	7.53秒
中3(市)	7.45秒	7.44秒	7.49秒	7.53秒	7.56秒

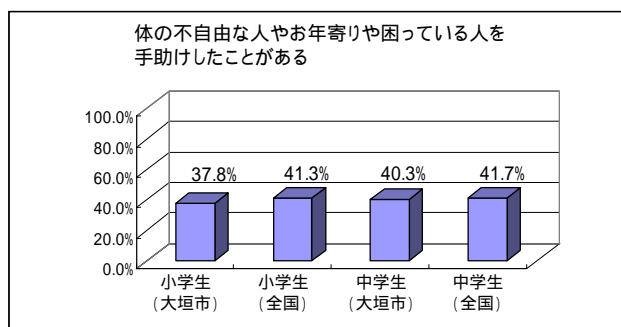
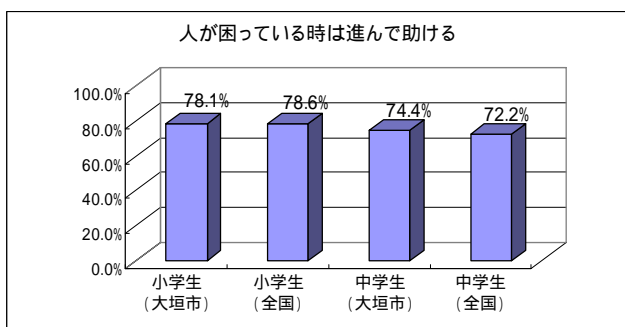


《規範意識》

○「学校の決まりや、規則を守る」「友達との約束を守る」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」など、いずれも90%以上の児童生徒が答えており、概ね規範意識が身につけているように思われます。しかし、「人が困っているときは、進んで助ける」と答えている児童生徒は、約75%まで下がっており、さらに「体の不自由な人やお年寄りや困っている人を手助けしたことがある」と答えている児童生徒は約40%と低い割合になっています。



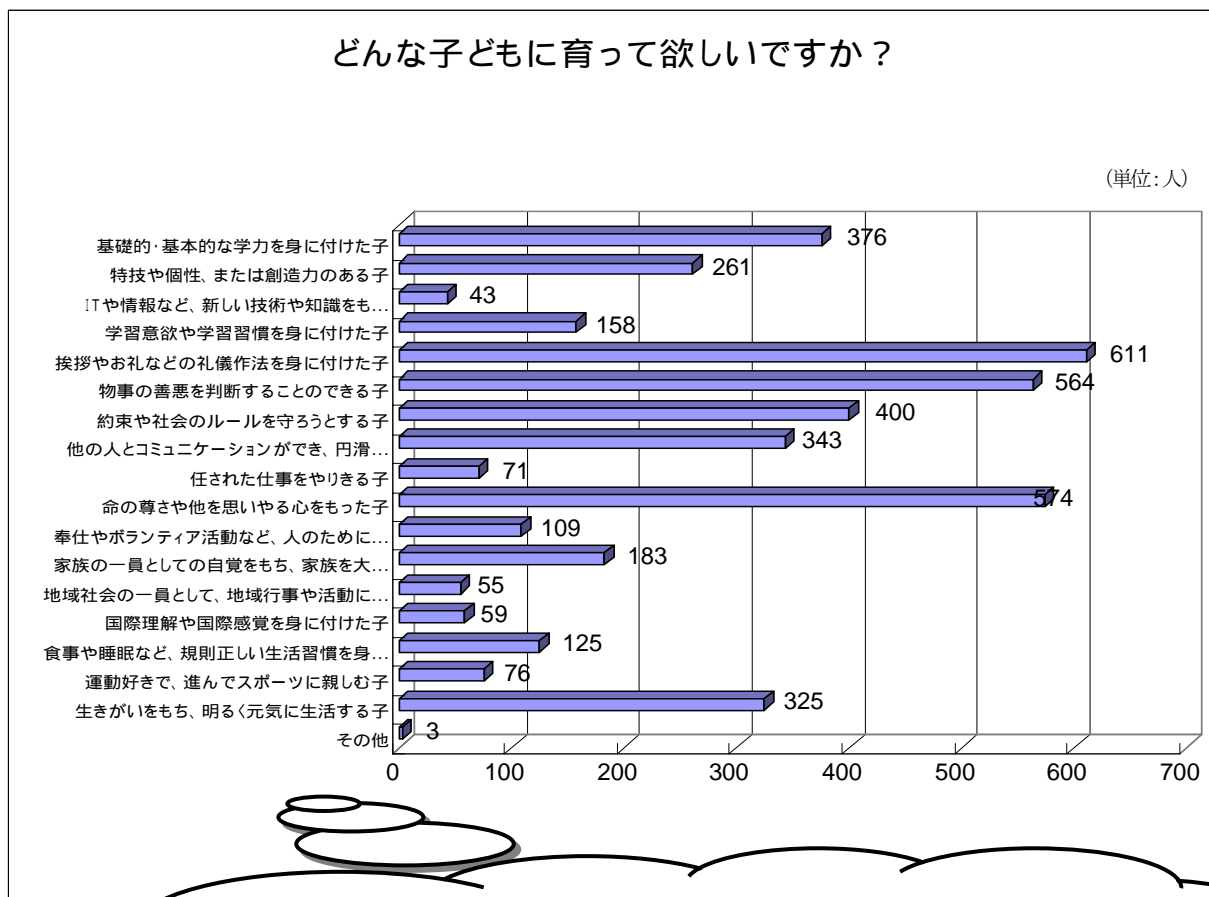
平成21年全国学力・学習状況調査から
 規範意識は全国平均を上回るとともに、90%を超えていることから、概ね身につけている。



平成20年全国学力・学習状況調査から
 規範意識は高いが、実際、困っている人を手助けしたことがある児童生徒は40%程度で、全国平均を下回ると共に、行動が伴っていないのが現状である。

《保護者の願い》

○保護者の子どもへの願いは、「あいさつやお礼などの礼儀作法をみに付けた子」、「命の尊さや思いやりの心をもった子」「物事の善悪を判断することのできる子」「約束や社会のルールを守ろうとする子」等、社会における規範意識や倫理観を大切にする思いが強く、「基礎的・基本的な学力をつけた子」を望む回答を上回っています。
社会が急速に変化を遂げ、人間関係の希薄化が進む中では、基本的な生活習慣や最低限の規範意識、生命の尊さ、他人への思いやりなどを培うことが望まれています。



平成20年12月実施「教育に関するアンケート調査(小中学校保護者)」から
社会における規範意識や倫理観の低下を懸念していると思われる。

☞ 社会における人と人とのつながりを回復し、地域コミュニティの再構築が必要である。

○これらのことから、子どもたちの姿としては、「豊かな心をもつ子」「志が高く学ぶ意欲をもつ子」「社会のルールを守り、思いやりの心を大切にする子」が求められます。

○そのためには、家庭だけでなく、地域社会における人と人とのつながりを大切にし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を支えていくことが必要です。
地域活動、体験活動等を充実すると共に、何よりも子どもたちが将来に夢をもてるような取り組みが欠かせないといえます。

第3章 大垣市の教育の現状について

1 学校教育分野

1. 学校教育分野における取り組みについて

感動の教育

1980年代は団塊ジュニア世代が学齢期を迎え、偏差値重視等の教育制度がひずみを起こし、詰め込み教育や校内暴力など、学校教育や青少年に関わる数々の社会問題が顕在化しました。そうした社会情勢を背景に本市では、昭和から平成に移る中、教育は感化であるとした『心にしみいる感動の教育』を教育理念に、心に潤いを与える様々な学校教育施策を推進してきました。

児童生徒の感受性を醸成するために、学校を花で飾る「花トピア学校花壇づくり事業」（平成3年度から）、本物のオーケストラや狂言などを鑑賞する「芸術鑑賞教室」（平成2年度から）、それぞれの学校の伝統や地域の特性を生かした学校運営に取り組む「特色ある学校づくり」（平成5年度から「学校夢づくり21」に名称変更）等を進めてきました。

国際化・情報化教育

1990年代は国際化・情報化への対応が求められる時代になってきました。国際化へ向けての対応として、国際理解教育の推進に努め、外国人英語指導助手ALTの採用（昭和61年度から。現在は11人採用）をはじめ、国際理解教育推進校の指定（平成4年度には全小中学校を指定）のほか、フレンドリーシティへの小中学生の派遣事業等も進めてきました。

また、情報化時代に対応するため、早くからパソコンの導入（平成2年度中学校、平成5年度小学校）をはじめ、情報教育の充実に努めてきました。平成10年2月には、大垣市教育情報センターを開設し、学校のイントラネットであるOPENを構築するなど、学校における情報化とインターネットなどを活用し、教育用デジタルコンテンツをはじめ、指導計画など様々な情報を提供し、授業に活かすような情報教育を推進してきました。

学社融合による教育

国における教育改革が激しく求められる中、『教育改革は授業改革から』として、教育は学校の中で先生だけがするのではなく、地域の様々な知識や技能を有する人たちが学校現場に入ること、一緒に教育をする地域人材の活用、いわゆる『学社融合による教育』（平成8年度から）を開始しました。

地域の人が学校に様々な形で関わることにより、多様な考え方、生き方を子どもたちが学ぶことで、コミュニケーションも広がり、地域の教育力も高まることから、地域ぐるみによる学校支援体制を組織的に構築していくことが、今後ますます求められています。

保幼・小連携、小中一貫教育

平成12年度からは、小学校の教育が中学校へと引き継がれる段差のない教育、小学校のきめの細かさと中学校の専門性の両者が生きる授業、より質の高い授業を求める教育風土を醸成するために、少人数指導や小中兼務教員による授業改善として『小中一貫教育』に着手し、平成14年度から全市へ広げ推進してきました。

今後、これまでの幼小連携や小中一貫教育の経験を生かし『保幼・小・中一貫性ある教育』を発展させ、保幼・小の連携による就学前教育の推進、国語科、算数・数学科、外国語科を

はじめとした『教科の一貫性ある指導』に着手し、保幼・小・中のなめらかな接続を目指してさらに取り組んでいく必要があります。

通学区域の弾力化

教育改革で求められている学校選択制については、平成11年度に設置された「大垣市教育懇話会」において、文教都市としてふさわしい学校教育のあり方を探るなかで、「校区の弾力化に関する検討委員会」を設置し、本市の実情に即しての通学区域のあり方について検討しました。その結果、3校の中学校に分かれている安井小学校についてのみ、保護者に学校選択の機会を与える中学校通学区域の弾力化（平成12年度から施行、平成13年度完全実施）を導入しました。

また、中学校における部活動は、生徒の成長や自己実現を図るための大きな要因になるものですが、生徒数の減少や指導員不足などの理由から、部活数が減少しています。そこで生徒が小学校時に取り組んでいた種目の部活が指定中学校にない場合等、ある条件のもとで指定中学校を変更できる制度を平成22年度から導入します。

学校の規模

上石津町・墨俣町との合併（平成18年3月）により、市域が拡大し、50人に満たない複式学級の学校から、800人を超える大規模校まで、学校規模の違いによる異なった教育条件・環境となりました。

また、市街地の宅地開発や工場跡地への宅地分譲等により、市全体としては少子化傾向の中にあつて、児童数が急増し教室不足が生じている学校もあります。

児童生徒にとって良好な教育環境を創出し、学校運営に格差が生じないように取り組んでいますが、今後は、児童生徒にとって望ましい教育環境の視点から、学校規模のあり方等についても検討をしていく必要があります。

全国学力・学習状況調査結果等から、児童生徒の学力や学習意欲には、家庭環境や家庭での生活・学習習慣が大きく関係していることが指摘され、経済格差が教育格差につながるともいわれています。混迷する経済情勢や社会情勢の中にあつて、今後ますます公教育に求められる期待や役割が大きくなっています。

これまで以上に「知・徳・体」の調和のとれた児童生徒の健全育成を目指して、教育環境を充実し『ひたむきに生きる力を育む教育』を大切にしながら明るく活力のある学校づくりに努め、子どもたちが大垣の歴史・文化を受け継ぎ、未来に夢を抱き、実現していく力を育てるような指導に取り組んでいく必要があります。

児童・生徒数推移表

(単位：人)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
小学校	9,550	9,527	9,500	9,414	9,296	9,235	9,102	-	-	-
中学校	4,508	4,531	4,607	4,696	4,677	4,635	4,577	4,568	4,582	4,547
合計	14,058	14,058	14,107	14,021	13,973	13,870	13,679	4,568	4,582	4,547

2. 主な施策

(施策1) 生きる力を育む教育の推進

○確かな学力を育むため、基礎・基本の確実な定着を目指したTTや少人数指導の導入、英語を中心とした外国語教育におけるコミュニケーション能力の育成、小学校高学年に対し専門性をいかした教科担任制などの試験的導入をしています。今後、確かな学力の定着に有効な小学校教科担任制を、すべての小学校に広めていく必要があります。

☞ **確かな学力の定着**

○豊かな人間性を育むため、道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にするとともに、1家庭1ボランティアなど、家庭・地域社会と一体となった地域ぐるみの道徳教育をしています。今後も、自立心や規範意識、生命を尊重する態度など、全学年を通じて重点とする内容、発達段階に応じて重点とする内容を明確にし、より効果的な指導を行っていく必要があります。

☞ **豊かな情操や規範意識、道徳心の醸成、体験活動の充実**

○健やかな体を育むため、学校給食を通じて食全般への関心、体育で運動に親しむ習慣を身につけるような指導をしています。子どもたちの体力、運動能力の低下は止まりましたが、運動をする子どもとあまりしない子どもの二極化の問題が新たな課題となっています。

☞ **食育の推進・子どもの運動への関心、体力を高める取り組みの充実**

○小中一貫性のある教育を大きなテーマとして、確かな学力の定着と教員の指導力の向上を図るために、研究員を指定し今日的教育課題について研究を進め、その成果を各小中学校に広げています。

今後も、研究内容・研修機会の充実に努め、実践的な指導力を備えた教員を養成していく必要があります。

しかし、教員の多忙感や様々な保護者への対応、心を病む教員の増加等、社会問題として取り上げられているように、まず、こうした教員の負担軽減を図り、生き生きとやりがいをもって児童生徒に教員が向き合えるよう、組織的な支援がなにより必要です。

☞ **子どもと向き合う時間の確保と教員の指導力の向上**

(施策2) 一人ひとりに応じた教育の実現

○障がいの重度化や重複化が進む特別支援学級には介助員を、ADHD等により特別な支援を必要とする通常学級には支援員を配置し、一人ひとりの教育的ニーズに対応しています。近年、通常学級を希望する保護者が多く、早い時期からの就学指導がさらに必要となっています。

※ADHD (Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder : 注意欠陥/多動性障がい) とは、年齢や発達に不つりあいな不注意さや多動性、衝動性を特徴とする発達障がい、日常活動や学習に支障をきたす状態をいいます。

👉発達段階に応じた特別支援教育の体系的な取り組み

適正就学判定数と就学率

	H16	H17	H18	H19	H20
判定を受けた人数	40人	29人	33人	29人	31人
入級児童数	28人	23人	24人	22人	24人
通常学級在籍数	12人	6人	9人	7人	7人
就学率	70.0%	79.3%	72.7%	75.9%	77.4%

○不登校傾向の児童生徒や保護者の相談に応じる「ほほえみ相談員」の配置、家庭に学習支援員の派遣、学校復帰を支援する適応指導教室の開設など、不登校児童生徒数の減少と健全な育成を図っています。しかし、小中学校ともに、国・県よりも不登校児童生徒数の出現率が高い状態が続いており、不登校児童生徒へのきめ細かな心のケアをさらに充実するとともに、地域の協力を得ながら家庭への支援などができる体制づくりが求められます。

👉不登校対策・問題行動対策等への組織的な取り組み

○外国人児童生徒を対象に、授業や集団生活に適応できるようにするため、初期指導教室(日本語指導、算数・数学指導、生活適応指導)、日本語教室を開催しています。今後は、自尊心を培ったり、学力の向上を図ったりすることが必要となってきています。また、日本人児童生徒の見方、考え方を豊かにし、異なる文化をもつ人々とともに歩もうとする共生力の育成が求められています。

○外国人労働者の受入れ企業、派遣会社に呼び掛け、学校、PTA等も含めた多文化共生をめざす国際教育推進連絡協議会を設置(平成19年度設置)し、保護者への連絡方法や、学校参観等への便宜等、様々な点で協力が得られ、外国籍児童生徒の教育環境を改善しています。

👉多文化共生教育に対する組織的な取り組み

外国人児童生徒数

	H16	H17	H18	H19	H20
全児童生徒数	13,236人	13,229人	14,107人	14,147人	14,129人
外国人児童生徒数	193人	196人	223人	276人	282人
割合	1.46%	1.48%	1.58%	1.97%	2.00%

(施策3) 地域に開かれた学校づくりの推進

○学校の教育目標、経営方針等を保護者や地域社会に積極的に情報提供するとともに、学校自己評価、学校関係者評価を実施・公表し、改善充実をしています。今後、評価をどのように改善に活かし、学校教育を行っているかについて、保護者や地域社会に理解と協力を得られるかが課題です。

☞ **保護者、地域と連携し、開かれた学校・活性化された学校**

地域に開かれた学校事例

分類	主な内容
地域の大人との触れあい	地区運動会
	三世代交流
	大垣市明るい青少年都市市民会議
情報公開	学校評価の公表

○教育活動に地域人材等を計画的に導入し、主に体験的な活動や伝統文化に親しむことにより、地域との関わりが進んでもてる教育をしています。今後も各学校が新たな地域人材を導入し、地域の体験的な活動、伝統文化と教育活動の関連を明確にし、学習への活用を図っていくことが重要です。

☞ **地域と学校が連携し、地域が学校を支える新たな仕組み**

地域人材の活用数

	H18	H19	H20
活用人数	5,008人	5,769人	5,621人

○各学校では、特色ある学校をつくるため、学校・家庭・地域の人々への思いやり、郷土への愛着・国際感覚の高揚を図るなど、豊かな心と社会性を育む「学校夢づくり21」を展開しています。特色ある学校づくりは、保護者や地域を巻き込んだ活動への広がり重要になっています。

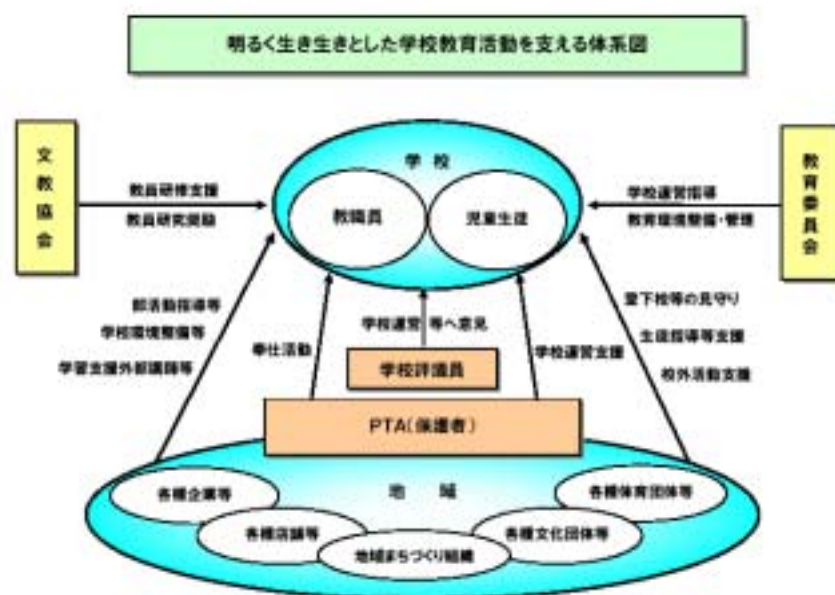
☞ **地域を巻き込んだ特色ある学校づくりの推進**

特色ある学校づくり（学校夢づくり21事業）実施例

分類	主な事業名		
ふるさと学習	紙すき体験	わらびもち作り	野菜づくり体験
	茶摘み体験学習	炭焼き体験	
体力づくり	一輪車交流大会	さわやかけん玉大会	持久走大会
福祉活動	福祉フェスティバル	福祉施設との交流	アルミ缶回収
音楽活動	合唱コンクール	歌声活動	
多文化交流	外国人との交流会		

3. 学校教育活動を支える主な団体と仕組み

組 織 名	内 容
大垣市文教協会	教育尊重の伝統に鑑み、教育の振興・充実を図るため、教職員の資質向上のための各種研修会、研究発表、講演会の開催や「文教のまち大垣」の発刊など、大垣市の教育力の向上を図っている。 ※公立保育園と民間保育園の交流については、互いの保育士が同じ研修会に参加しているが、より深く相互の教育を理解するため、公立保育園・民間保育園がともに大垣市文教協会に加入し、教育力の向上と保育士の連携強化を図ることを検討している。
P T A	P T A (Parent Teacher Association) は、児童・生徒のよりよい教育環境の醸成を旨とする保護者と教員によって構成される教育関係団体で、それぞれの学校ごとに組織され、学校行事の協働や読み聞かせ、交通安全指導、学校評価など、多分野にわたる学校運営支援を行っている。また、子どもを中心に地域との協力関係を高めている。
学校評議員	学校運営等に関する意見を求めるなど、地域に開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域住民などの相互の意思疎通や協力関係を高めている。



4. 今後目指すべきポイント

確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を育み、「知・徳・体」の調和のとれた「ひたむきに生きる力」を育てる。

保幼・小・中の一貫性ある教育を進め、15歳までを見通した教育を通して、未来に夢を抱き実現していく力を育てる。

特別支援教育、不登校対策、多文化共生教育等、一人ひとりに応じた教育を充実するため、体系的、組織的な取り組みを進める。

各種研修を通じて、実践的な指導力を備えた教員を養成し、教員の指導力の向上を図る。
 地域に開かれた学校づくりを一層推進するため、学校評議員等の意見を取り入れた学校運営
 を図り、保護者や地域から信頼される学校をつくる。

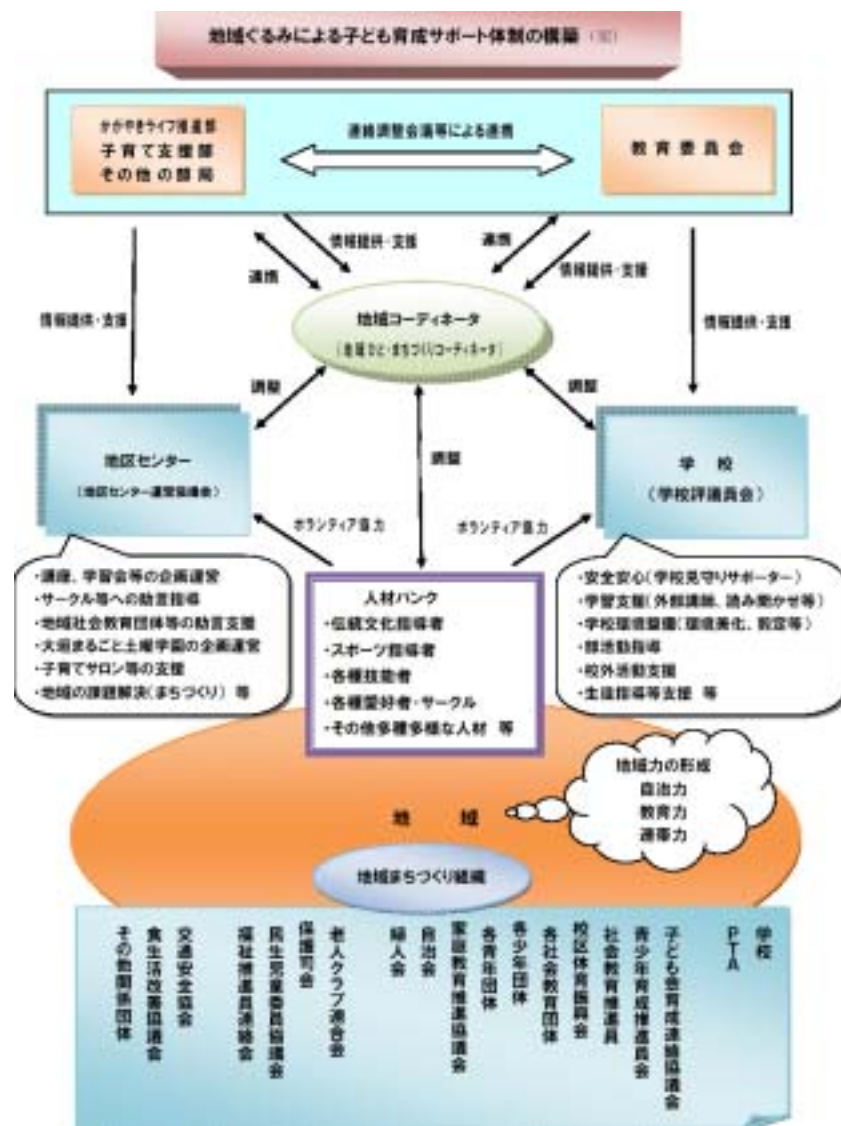
地域ぐるみで学校教育活動を支える新たな仕組みづくり(案)

近年、国際化、情報化などが進展するとともに社会構造の複雑化により、学校や児童生徒
 を取り巻く環境が大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えています。

また、家庭や地域の教育力が低下し、学校に過度の期待が求められ、今後の教育は、学校
 だけが責任を負うのではなく、学校・家庭・地域が連携協力し進めていくことが不可欠とな
 っています。

このため、学校を核とした地域の教育力の再生を図り、学校を支援するボランティアによ
 る学校ニーズに応じた教育活動支援を実施するため、『学校支援地域人材バンク』を設置し、
 地域ぐるみによる学校サポート体制を構築します。

学校を支援するこれまでの取り組みをさらに発展させ、学校の求めと地域の力をマッチング
 し、より効果的な学校支援を行いうことで、教育の充実を図ることが期待できます。



2 社会教育分野

1. 社会教育分野における取り組みについて

平成2年に生涯学習振興法が成立し、生涯学習社会の実現に向け、全国的に生涯学習の拠点整備や学習機会の提供拡充が進められました。

大垣市では、平成4年4月に生涯学習の中核拠点（スイトピアセンター）として、学習館を開館し、文化会館、図書館と連携を図りながら、市民一人ひとりが生涯にわたって生きがいをもち、こころ豊かで活力に満ちたひとづくりを展開してきました。

なかでも、50有余年の伝統と歴史を誇る成人学校をはじめ、乳幼児家庭学級、幼小中学校の保護者を対象にした家庭教育学級、高齢者学級、大学と連携したコミュニティカレッジなど、あらゆる世代に対するきめ細やかな学習を展開してきました。

しかし、社会環境が変化していくなか、市民の求める学習ニーズが多様化、高度化しており、また、乳幼児から青少年まで、青年から高齢者まで、様々な世代に応じた生涯学習の基盤整備と一人ひとりにあわせた学習環境が必要となっています。

そのため、成熟した市民社会をめざし社会参加や地域貢献を通して、自己実現や生きがいを実現できるまち・大垣を創り出すために、「かがやきライフタウン構想」を策定（平成16年9月策定）し、市民・企業・行政などによる協働型まちづくりを進めてきました。

こうしたなか、市民協働の重要性が高まり、社会教育活動の新たな展開を図るため、平成19年4月に教育委員会内の生涯学習課、保健体育課を社会教育スポーツ課に改編し、市長部局にかがやきライフ推進部を設置し、生涯学習に関することは、かがやきライフ推進部が、家庭教育、青少年健全育成、人権教育に関することは社会教育スポーツ課が所管することとしました。

しかし、市民の生きがいや、やりがいもてる社会づくり、まちづくりに努めていくために、社会教育の振興と生涯学習の推進は不可分の関係にあり、相互に連携していく必要があります。

今日、市民一人ひとりが誇りと責任をもち、それを未来に拓く、活力に満ちたまちづくりをすすめるため、こころの豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を図ることが求められています。

今後も市民の学習意欲の啓発・推進を図るとともに、幼児期からそれぞれの発達段階に応じた学習機会の提供を進めるとともに、だれもが、あらゆる機会に、あらゆる場所において学び、その成果を適切に生かすことができるような環境の整備がますます必要となります。

今後も、ひとづくりがまちづくりであり、まちづくりがひとづくりとなるよう社会教育の振興、生涯学習の推進に努めていくことが大切です。

2. 主な施策

(施策1) 社会教育活動の充実

○家庭の教育力の向上を目指し、親子ふれあい教室等を通して、親の役割を学ぶ機会を提供しています。家庭教育講座の開催需要に対応できないため、回数、時間数の見直しと市民団体との協働事業の展開を検討しています。

☞ 教育の原点である家庭の教育力の向上に向けての取り組み

家庭教育学級参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
学 級 数	45	45	45	57	55
参 加 人 数	5,597人	5,063人	6,799人	10,539人	8,887人

○学校休業日の地域活動として開催する講座、社会見学、奉仕活動等を支援し、親と子のふれあいや地域の大人と子どもの交流を図っています。講座内容への要望は、特に、体験型の学習機会を中心とした講座の充実が求められています。

☞ 地域における子どもの居場所づくり、地域が子どもを育て見守る環境の整備

まるごと土曜学園参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
講 座 数	27	26	33	32	29
参 加 者 数	16,433人	14,896人	15,004人	14,135人	12,867人

○人権尊重の意識を高める教育を推進するため、人権講座を開催するとともに、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題への正しい理解と認識を深めるための学習機会の充実を図っています。しかし、人権に関する市民意識調査では、約6割の人が「人権侵害を受けたことがある」と回答していることから、今後も、人権教育を推進していく必要があります。

☞ 人権尊重の気風

同和教育講演会・人権講演会参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
同和教育講演会 参 加 者 数	253人	185人	176人	109人	169人
人 権 講 演 会 参 加 者 数	585人	220人	240人	378人	289人

※大垣市「人権尊重の街づくり」に関する市民意識調査（平成18年10月人権擁護推進室が実施）

(施策2) 青少年活動の充実

○青少年がこころ豊かにたくましく成長するために、家庭、地域での青少年健全育成や社会環境の整備を進めています。とりわけ、地域の中で子どもを温かく見守り支援しようとする大人を増やす「地域のおじさん・おばさん運動」を進めています。今後とも、この運動に賛同する大人の数を増やし、地域における教育力を高めていく必要があります。

☞ 青少年を育てるための健全な家庭づくりの推進

「地域のおじさん・おばさん運動」の登録者数

	H18	H19	H20
登録者数	1,321人	1,957人	3,006人

○少年の船派遣事業や子ども会リーダースクールなどを開催し、地域で活躍できるリーダーの育成のための研修会を実施しています。少年の船派遣事業では、市内小学6年生の代表者に、洋上や野外等で集団生活を体験させることにより、リーダーとしての資質を養っています。リーダースクールへの参加者数は年々減少傾向にありますが、子ども会活動は、地域における少年活動の中心を担う重要なものであり、今後とも活性化を図っていく必要があります。

☞ リーダーの育成のための研修会の実施

子ども会リーダースクールの参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
参加者数	164人	211人	216人	120人	97人

○子どもや親子で参加できる講座・企画などの情報を集め、週末や長期休暇中に活動機会や家庭教育に関する情報を提供しています。求められる情報の把握、乳幼児をもつ家庭や高齢者からの配布要望など、多様化するニーズに対応するため、内容構成、配布方法を含めた検討をしています。

☞ 学びと遊びのための情報の提供

「この指とまれ」の発刊数

	H16	H17	H18	H19	H20
発行部数	84,000部	84,000部	84,000部	84,000部	84,000部

(施策3) まちづくり市民活動の充実

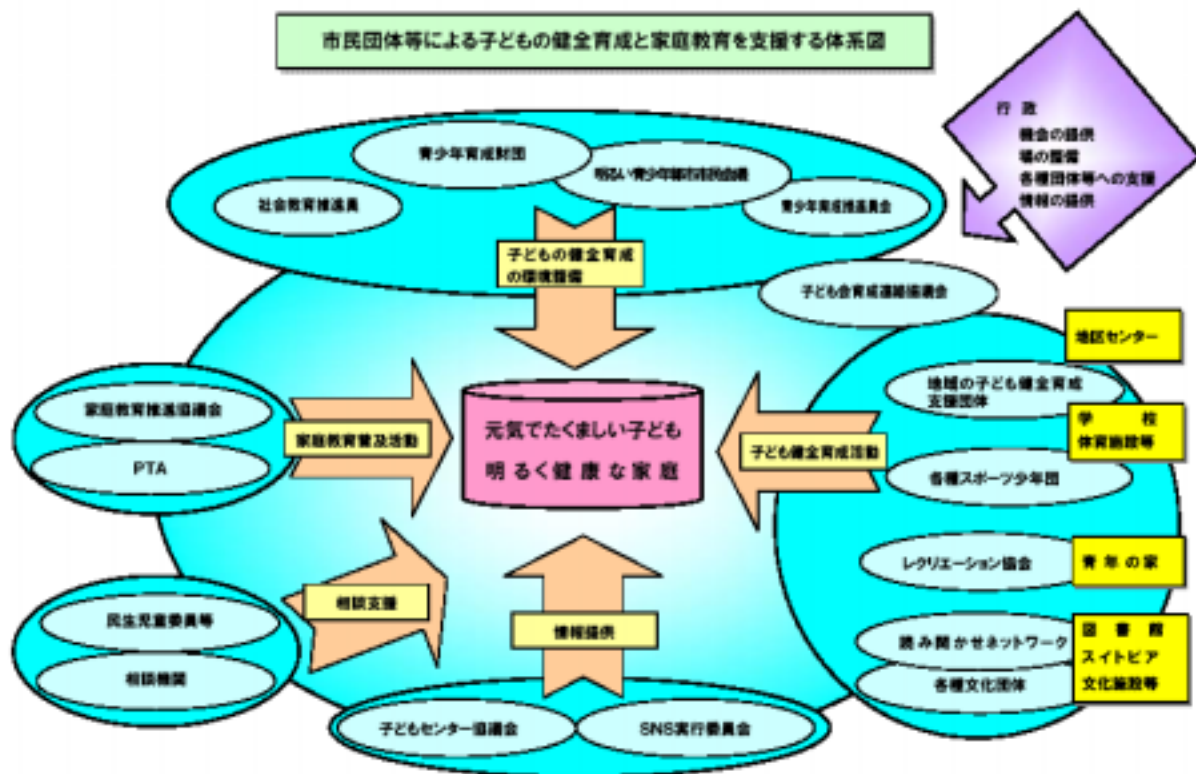
- かがやきライフタウン構想を推進するため、これまでの行政主導で実施していた講座で構成する成人学校から、講師を広く一般公募し、市民と行政がともに講座を作り上げていく市民協働による「かがやき成人学校」に改めました。陶芸、書道、絵画、料理、文学などの趣味、教養講座を生涯学習へのきっかけ作りとして、数多くの市民が参加しています。
- また、子どもの頃に戻って小学校で学びながら、熟年世代と小学生との積極的な世代間交流を図るとともに、受講生同士の仲間意識を高め、今後の社会参加や地域貢献へ繋げていくため、50歳以上の熟年世代を対象に「かがやき熟年スクール」を開催しています。
- 生涯学習講座に対する受講生のニーズは高く、講座数の増加が求められており、地区センター等、身近な場所で社会教育、生涯学習を展開していくことが求められています。
 - ☞ 市民の社会参加や地域貢献などを通じた自己実現や生きがいの実感
 - ☞ 地区センター等における社会教育・生涯学習施策の充実

3-1. 社会教育活動を支える主な団体と仕組み

組 織 名	内 容
家庭教育推進協議会	地域の子育て市民団体との協働事業として、家庭教育支援を推進するため、ママくらぶ、母親講座、おやこでリズムあそび等の講座を開催するなど、家庭における教育力の向上を図っている。
P T A	家庭教育学級の役割は、子どもたちの豊かな心や主体性を育てることにある。子育てやしつけについて学習する場、悩みを話し合える場等をつくり、家庭教育学級の充実を図っている。また、子どもを中心に地域との協力関係を高めている。

3-2. 青少年活動を支える主な団体と仕組み

組 織 名	内 容
大垣市青少年育成財団	こころ豊かな青少年の育成を目的に、大垣市明るい青少年都市市民会議への支援や、草の根的な青少年活動を行っている団体への助成事業などを行っている。
大垣市明るい青少年都市市民会議	大垣市青少年育成財団とともに青少年の健全育成という同一の目的をもって、主に、地域社会全体で青少年の健全育成を推進する気風の醸成や、地域のボランティア、市民団体等との協働による、青少年の主体的な地域づくりへの参画に対する支援を行っている。
大垣市青少年育成推進員会	「家庭の日推進」、「大垣市少年の主張大会」など、青少年健全育成活動の普及徹底を図るとともに、地域の実態に即した実践活動（街頭補導、パトロールなど）を展開している。
大垣市子ども会育成連絡協議会	地域の子ども会活動の活性化を図るとともに、青少年の健全育成を図るため、「育成者中央研修会」「子ども会まつり」など様々な事業を展開している。
大垣ジュニアリーダーズクラブ	地域子ども会の発展に尽くし、自己の教養を高めるとともに、社会に奉仕するため、ボランティア活動や子ども会などで指導する技術を高めるための研修活動を展開している。



4. 今後目指すべきポイント

- 学校・家庭・地域が連携協力し、明るく健全な地域社会を構築する。
- 子育てに関する学習機会・情報提供・相談などを通じて、家庭の教育力を向上する。
- 市民一人ひとりが生涯を通じて、主体的な学習活動ができる環境を整える。
- 地区センター等を拠点として、地域の社会教育、生涯学習の展開を拡充する。

地区センターの公民館化（検討中）

各小学校区等に整備されつつある地区センターにおける社会教育活動の充実を図るため、『地区センターの公民館化』を目指して、地区センターと公民館の再編を図っていく必要があります。

3 図書館分野

1. 図書館分野における取り組みについて

図書館は、明治44年(1911年)に大垣町教育会図書館として創設し、大正7年市制施行に伴い、大垣市立図書館となりました。昭和4年(1929年)、個人の寄付により藩校跡(現在の保健センター)に鉄筋コンクリート2階建てを新築しました。

昭和20年7月、戦災により内部を消失しましたが戦後復興し、市民の文化向上発展に大きな役割を果たしてきました。そして、建物の老朽化により、昭和55年1月、市制60周年記念として、鉄筋コンクリート4階建てレンガタイル張りの現在の図書館を開館しました。

平成4年4月、市制70周年記念として、隣接して学習館を建設、既設の文化会館、図書館と併せて「スイトピアセンター」としてオープンしました。学習・創作・研究機能の「学習館」、発表・展示機能の「文化会館」、知識・調査・情報機能の「図書館」の三館の機能を複合したハイブリッドな学習環境をめざしてきました。

平成18年3月、大垣市、上石津町、墨俣町の合併に伴い、本市の図書館は大垣市立図書館(スイトピアセンターの図書館)、上石津図書館、墨俣図書館の三館となりました。

図書館は図書およびその他の資料を収集、整理、保存し、市民の教養、調査研究等、利用者の求めに応じた資料を提供する施設として、社会の変化に伴い、市民の実態やニーズを的確にとらえ、生涯学習の情報基地として、文教都市・大垣の歴史と伝統に根ざした「暮らしに役立つ、市民の図書館」をめざし、図書館サービスの充実を進めてまいりました。

蔵書は、幅広い年齢層を対象に、あらゆる分野にわたり、図書をはじめ、映像や音楽資料、地形図や点字図書や録音テープなど障がいに応じた資料など、さまざまな形態で提供しています。また、大垣藩の武家文書をはじめ、藩校で使われた漢籍本や和本、古地図、古書など本市の歴史的資料を大垣の歴史・文化の継承のため収集・保存しており、多くの研究者や郷土史家等が調査や研究のために訪れます。

本の問い合わせについては、図書館の利用者用パソコンや家庭からのインターネット、携帯電話からでも蔵書の検索ができ、予約することができます。昭和41年7月から平成16年8月まで、38年間にわたり続けてきたブックモバイル(移動図書館:いずみ号)にかわり、予約配本サービスによって利用者の身近なサービスセンターや公民館、地区センターで受け取ることができるようにしました。

また、本市の図書館に所蔵していない本は、岐阜県図書館をはじめ、県内の公共図書館や愛知・三重県の公共図書館、国立国会図書館、県内の大学図書館等と連携し、利用者の求めに応じて、相互貸借サービスをしています。

子どもの読書推進は、昭和55年の図書館開館以来、30年間に渡り、図書館ボランティアグループ「お話の会『大きな樹』」が毎週土・日曜日に絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。さらに、平成16年8月から保健センターの乳児4か月健康診査において、赤ちゃん絵本と親子ふれあいバックをプレゼントし、親子に読み聞かせ指導を行っています。フォローアップ事業として、各図書館において、乳幼児用のお話会「おひぎでだっこ」を開催し、赤ちゃん絵本や指遊び、わらべうたを紹介し、絵本を通じた親子のふれあいを薦めています。

ます。

また、市制施行90周年を機に、市内にある読み聞かせボランティアグループのネットワーク化を図り、記念事業として子ども読書フェスティバルを開催（平成21年2月）し、子どもの読書推進の気運を盛り上げました。

2. 主な施策

(施策1) 図書館の充実

○地域を支える知の拠点として「暮らしに役立つ市民の図書館」を目指して、幅広い年齢層や利用目的に対応した多様な資料を収集し、市民に提供しています。今後は、市民の読書を支援するだけでなく、地域の課題解決や市民生活の向上に役立つ資料や情報を提供する役割を担う施設として、資料の充実や図書館サービス拠点の整備充実が必要となっています。

☞ 社会の変化に対応した図書館サービスの充実

蔵書冊数・貸出冊数

平成21年3月31日現在

	蔵書冊数	1人当たりの蔵書冊数	個人貸出冊数	一人当たりの貸出冊数
大垣市立図書館	393,000冊	2.4冊	648,000冊	3.9冊
県内の市立図書館	—	3.1冊	—	4.6冊
同規模市の公立図書館	499,000冊	3.1冊	973,000冊	6.0冊

入館者数・貸出冊数

	H16	H17	H18	H19	H20
大垣	426,837人	410,529人	394,976人	380,470人	385,816人
	559,584冊	547,810冊	544,107冊	555,507冊	599,180冊
上石津	3,949人	4,479人	5,993人	7,842人	8,613人
	9,127冊	9,863冊	15,873冊	22,184冊	23,283冊
墨俣	-人	-人	7,471人	9,622人	12,248人
	7,825冊	5,631冊	12,471冊	18,655冊	25,304冊
合計	430,786人	415,008人	408,440人	397,934人	406,677人
	601,587冊	563,170冊	572,451冊	596,346冊	647,767冊

○市立図書館の創設以来、藩校の蔵書や藩政資料を収集・整理して、テーマごとに展示や講座を開催し、蔵書資料の情報を提供しています。今後は、現在進めている市史編纂事業で収集した資料やデータと合わせ、「文教のまち大垣」の歴史や文化を後世に伝承していくために、歴史的資料を体系的、継続的に収集・整理し、利用しやすい方法で提供することが求められています。

☞ 「文教のまち」を受け継ぐ体系的な歴史的資料の整備、活用

歴史資料収集状況

歴史的資料	古文書	漢籍本	和本	その他
点数	24,000点	4,000点	10,000点	新聞、雑誌、写真等

(施策2) 子どもの読書環境の充実

○子どもたちが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにして、人生をより深く生きる力を身につけていくために必要な読書活動を推進できるよう、市立図書館や学校図書館の整備を図っています。今後は、豊かな心を持ち、健全な精神の発達を遂げ、情報の取捨選択する能力や活用する能力、読解力を身につけるように、幼児期からの読書習慣の形成と読書環境の整備が求められています。

☞ 子どもの読書推進活動の拡充や子どもの読書環境の整備

開催事業

	H16	H17	H18	H19	H20
ブックスタート実施数	939人	1,471人	1,504人	1,510人	1,484人
読み聞かせ会	103回	102回	168回	165回	144回
お話の会「おひぎでだっこ」	—	—	—	30回	62回

ブックスタートとは、保健センターで毎月実施される4か月児健康診査時に、親子に絵本の読み聞かせの楽しさやその方法を伝えるため、読み聞かせ指導員が、絵本2冊と図書館が作成した読み聞かせのしおり「絵本とかあちゃん すてきなひととき」の入ったブックスタートバックを手渡ししながら、読み聞かせ指導をするもの。

児童図書の蔵書冊数・貸出冊数

平成21年3月31日現在

	蔵書冊数	個人貸出冊数
大垣市立図書館	108,000冊	246,000冊
同規模市の公立図書館	124,000冊	321,000冊

学校図書館の蔵書冊数・貸出冊数（小学校）

	H16	H17	H18	H19	H20
蔵書冊数	194,912冊	201,798冊	258,770冊	253,176冊	260,391冊
貸出冊数	442,106冊	469,110冊	593,226冊	647,561冊	743,912冊

学校図書館の蔵書冊数・貸出冊数（中学校）

	H16	H17	H18	H19	H20
蔵書冊数	140,377冊	143,659冊	145,967冊	149,354冊	149,187冊
貸出冊数	63,799冊	75,733冊	77,190冊	76,808冊	72,517冊

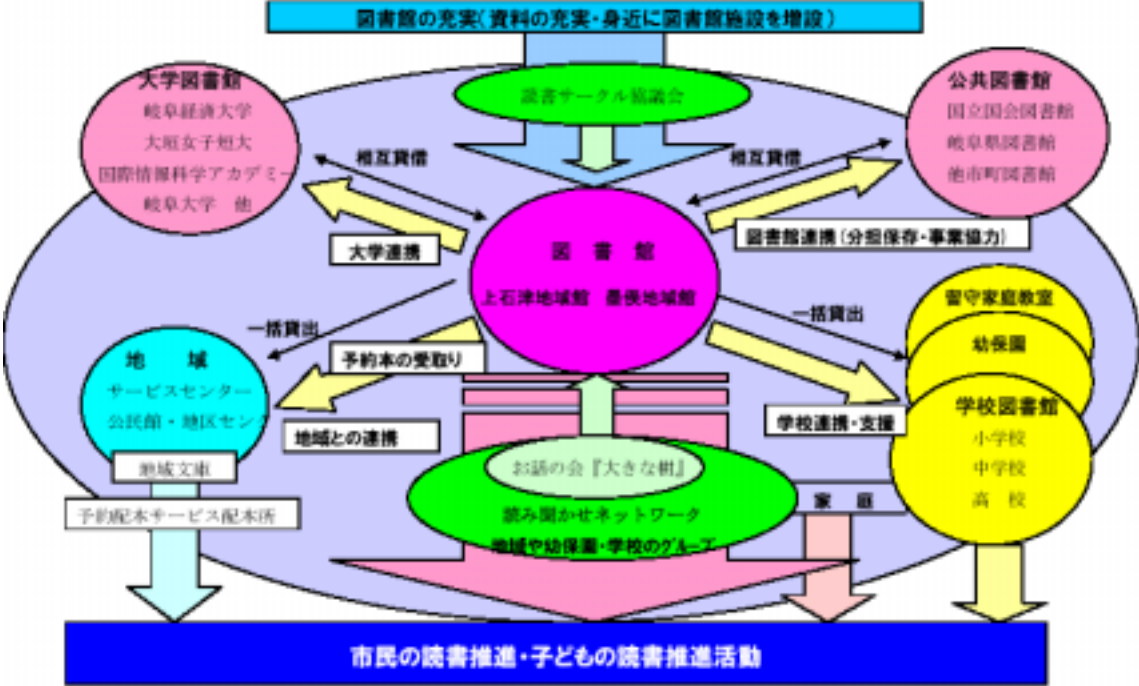
3-1. 図書館活動を支える主な団体

団体名	内容
大垣市読書サークル協議会	昭和37年に母親文庫、PTA読書サークル等を核に結成以来、読書を通じて様々なことを語り合いながら、一人ひとりの読書を深めているほか、毎年、文学講座、文学散歩、読書講演会等を開催して、市民の読書推進に努めている。

3-2. 子どもの読書活動を支える主な団体

団体名	内容
お話の会『大きな樹』	昭和55年の市立図書館オープン以来、30年にわたって児童閲覧室のお話コーナーで、毎週土曜、日曜日の午後2:00～2:30まで読み聞かせを行っている。 幼稚園や小学校、その他の公共施設においても読み聞かせ等を行い、本市における子どもたちの読書推進のリーダーとして活動している。
読み聞かせネットワーク	保育園、幼稚園、小学校、公民館、地区センター、及び市立図書館で読み聞かせボランティア活動しているグループや個人を対象にネットワークを構築し、情報提供や読み聞かせのスキルアップのための研修会、子ども読書フェスティバルを開催し、市内全域において子どもたちの読書推進に取り組んでいる。

地域の知の拠点として、「暮らしに役立つ市民の図書館」をめざす体系図（案）



4. 今後目指すべきポイント

- 様々な資料や情報を収集し、身近なサービス拠点を整備する。
- 子どもたちが、自主的に自由に楽しく読書をすすめられる環境を整える。

4 生涯スポーツ分野

1. 生涯スポーツ分野における取り組みについて

大垣市におけるスポーツの振興は、昭和26年5月に戦後の混乱した世情にあつて、市民の夢と希望を与えるのはスポーツであるという大きな期待を担って「大垣市体育連盟」が設立されました。

以来、地域に根ざしたスポーツ活動を通して、市民の健康と体力の増進、競技力の向上、青少年の健全育成など、多岐にわたるスポーツの事業が展開されてきました。

また、「大垣市体育連盟」は、地域におけるスポーツの組織づくり、ドイツをはじめとした世界各国とのスポーツの国際交流、市からの委託を受け体育施設の管理運営など、大垣市のスポーツ振興の担い手として、現在までさまざまな事業を展開しています。

一方、市では、北公園野球場をはじめ、総合体育館、浅中公園総合グラウンド、市民プールなど様々なスポーツ需要に応じて、施設整備に努めてきました。

近年、国際化、高度情報化、高齢化、少子化が急速に進展すると共に、従来の社会経済システム、行動様式、価値観等が変化する中で、人間関係の希薄化、ストレスの増大、運動不足など、心身両面に健康上の問題を生み出しています。

こうしたことから、人々の健康やスポーツへの関心が一層高まり、多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らすことができるよう、生涯スポーツをはじめ、競技スポーツ・少年スポーツの振興に努めています。

特に、市民の「だれもが、いつでも、どこでも、気軽に」スポーツを楽しむことができるよう、学校の施設を開放したり、さらに赤坂スポーツ公園、杭瀬川スポーツ公園、武道館などを整備したりすることで、地域に密着したスポーツ活動やレベルの高いスポーツ競技を楽しむことができるよう展開してきました。

このように、身近な地域において、体力や年齢、目的等に応じてスポーツを気軽に楽しむことができる豊かな環境の整備を進めるとともに、平成24年に開催される「ぎふ清流国体」に向け、本市開催6種目（水泳・軟式野球・フェンシング・柔道・サッカー・ソフトボール）の会場となる体育施設の整備を計画的に進めています。

また、小中学生の頃から地域で気軽に運動にふれ、運動に親しみことができるようスポーツ少年団の育成や、中学校の部活動等の支援に努めてきました。

さらに、地域のコミュニティスポーツの推進を図るため、各校区にある体育振興会や体育指導員を中心にしたヘルシーウォークの開催、軽スポーツの推進などに取り組んできましたが、その役割はさらに重要になっています。

スポーツを通して、地域コミュニケーションが深まり、市民が明るく豊かで活力に満ちた地域社会を実現するため、今後も、市民一人ひとりがスポーツ活動の必要性を認識し、健康な日常生活を営むことができるよう、暮らしにスポーツのある地域づくりを進めていく必要があります。

2. 主な施策

(施策1) 生涯スポーツの振興

○身近なところでスポーツに親しむ活動を充実するために、各地域におけるコミュニティスポーツの普及を進めています。年齢や性別を問わず、いつでも、だれでも気軽に参加することができる、コミュニティスポーツの啓発活動に努め、より多くの地域住民の参加を促しています。

☞ すべての人がスポーツに親しみ健康の促進

スポーツ・レクリエーション祭(6月開催)および大垣市民総体(10月開催)参加人数

	H16	H17	H18	H19	H20
参加人数	12,000人	11,000人	14,200人	14,200人	14,300人

○学校を地域コミュニティやスポーツ振興の核とするため、学校施設を開放し、地域との連携を積極的に進めています。しかし、夜間の利用希望が非常に多く、すべての要望に対応できていないのが現状です。

☞ 学校等を拠点とした地域のスポーツ活動の拡大

学校開放施設利用状況数

	H19	H20
運動場(昼間)	180,104人	200,494人
運動場(夜間)	16,761人	21,943人
体育館(昼間)	146,185人	128,960人
体育館(夜間)	190,698人	192,173人
合計	533,748人	543,570人

(施策2) 競技スポーツの振興

○競技スポーツを盛んにするための選手の育成・強化、体育施設の整備を進めています。競技団体や学校・企業クラブ等と連携し、小中高一般へと一貫した選手の育成と指導者の養成を図っています。平成24年に開催される「ぎふ清流国体」に向けて、さらに競技力の向上を図っていく必要があります。

☞ 学校、競技団体、スポーツクラブ等が連携協力し、競技力の向上

(施策3) 少年スポーツの振興

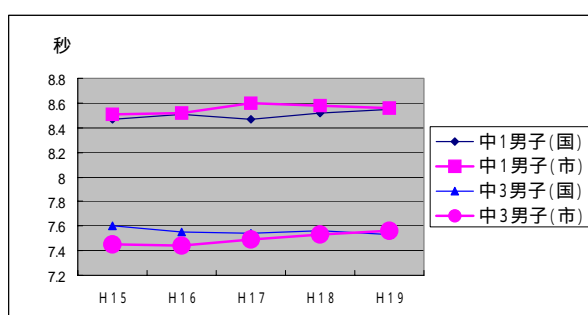
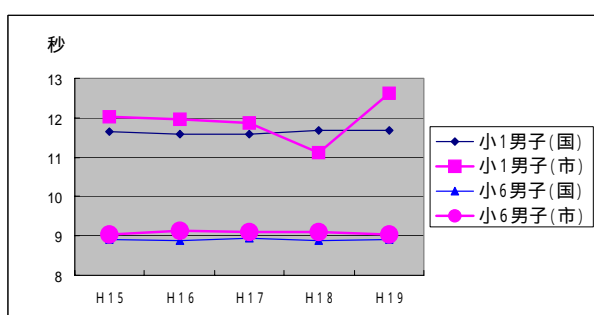
○運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向が見られ、小学校早期の段階による運動未経験等が起因して、体力の平均値が全国平均よりも低い状況が続いていますが、学年が上がるにつれて、全国平均との差が縮まっていることから、体育の授業や業間体育、学校行事、部活動などの取り組みが成果を上げていると考えられます。競技力向上のため小中学校の体育振興団体(小体振、中体連)、少年団やクラブチーム等へ実技指導者派遣のサポートをして、児童生徒の体力の向上を図っています。

☞ 児童生徒のスポーツへの意欲と体力

スポーツテスト男子平均推移（50m走）

小・中学校男子

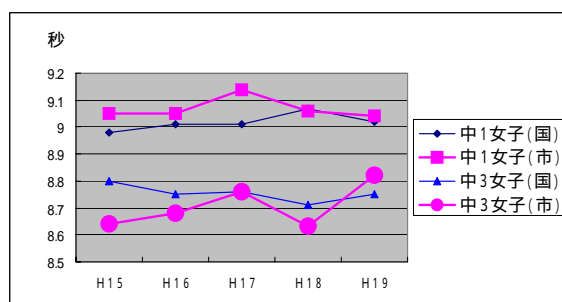
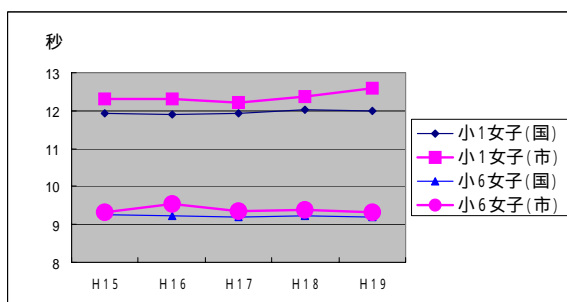
	H15	H16	H17	H18	H19
小1 (国)	11.65 秒	11.60 秒	11.57 秒	11.68 秒	11.67 秒
小1 (市)	12.03 秒	11.97 秒	11.86 秒	11.12 秒	12.63 秒
小6 (国)	8.91 秒	8.89 秒	8.95 秒	8.89 秒	8.91 秒
小6 (市)	9.04 秒	9.14 秒	9.10 秒	9.10 秒	9.03 秒
中1 (国)	8.47 秒	8.51 秒	8.47 秒	8.52 秒	8.55 秒
中1 (市)	8.51 秒	8.52 秒	8.60 秒	8.58 秒	8.56 秒
中3 (国)	7.60 秒	7.55 秒	7.54 秒	7.56 秒	7.53 秒
中3 (市)	7.45 秒	7.44 秒	7.49 秒	7.53 秒	7.56 秒



スポーツテスト女子平均推移（50m走）

小・中学校女子

	H15	H16	H17	H18	H19
小1 (国)	11.93 秒	11.90 秒	11.94 秒	12.01 秒	11.98 秒
小1 (市)	12.30 秒	12.32 秒	12.21 秒	12.36 秒	12.58 秒
小6 (国)	9.25 秒	9.22 秒	9.20 秒	9.22 秒	9.19 秒
小6 (市)	9.33 秒	9.53 秒	9.34 秒	9.37 秒	9.33 秒
中1 (国)	8.98 秒	9.01 秒	9.01 秒	9.07 秒	9.02 秒
中1 (市)	9.05 秒	9.05 秒	9.14 秒	9.06 秒	9.04 秒
中3 (国)	8.80 秒	8.75 秒	8.76 秒	8.71 秒	8.75 秒
中3 (市)	8.64 秒	8.68 秒	8.76 秒	8.63 秒	8.82 秒



(施策4) スポーツ環境の充実

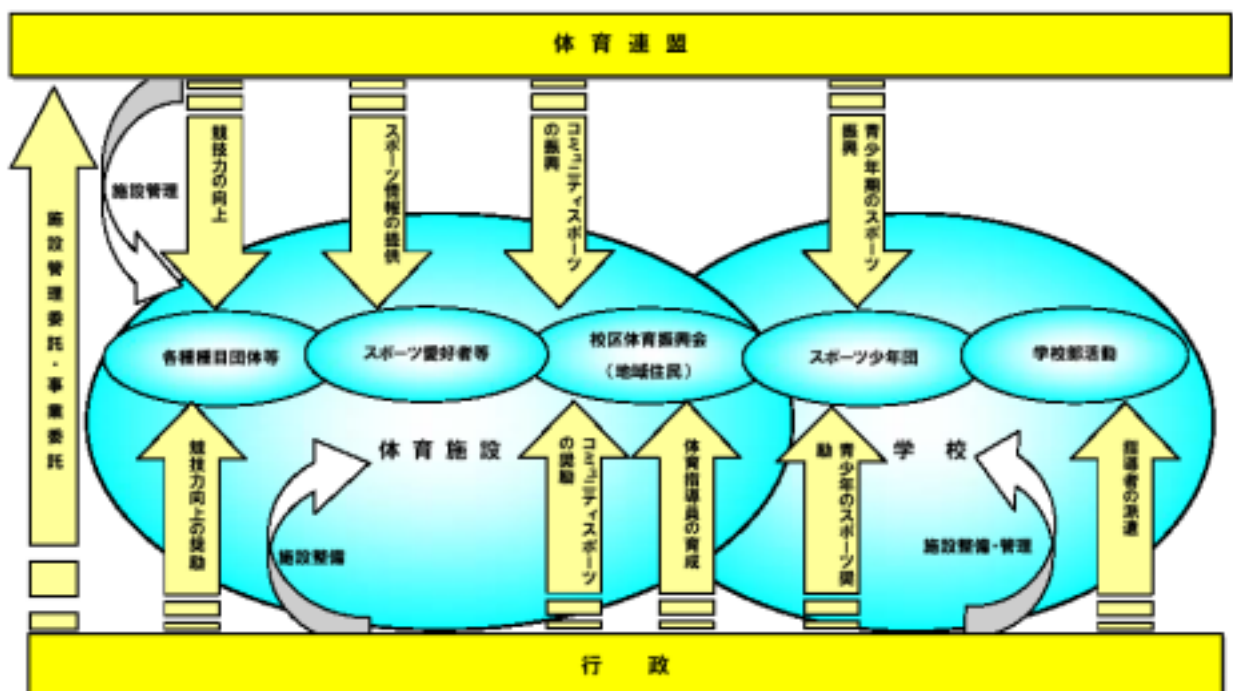
○すべての年齢層が身近な地域においてスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らすことができるようスポーツ環境の充実を図っています。しかし、身近な地域でのスポーツ環境整備が望まれる中、現在、各体育施設とも老朽化が進んでいるため、環境整備の充実や計画的な施設改修が必要です。

☞ 各種体育施設の改善・充実

3. スポーツ活動を支える主な団体と仕組み

組織名	内容
財団法人大垣市体育連盟	広くスポーツの普及・振興を推進するとともに、市民の健康増進と体力の向上を図ることを目的としている。 なかでも、校区体育振興会の組織力強化と地域スポーツの活性化を図っている。
校区体育振興会	生涯スポーツの普及による地域住民の健康増進と相互交流を図ることを目的として、小学校区（大垣地域17、上石津地域1、墨俣地域1）ごとに発足し、主な事業は、地域市民運動会に代表される地域スポーツ大会など体育行事の開催を行っている。
体育指導員	各体育振興会において、スポーツの実技指導、助言、企画、コーディネータとして地域におけるスポーツ振興の役割を担っている。
スポーツ少年団	スポーツを計画的、継続的に行うとともに、野外活動・学習活動・奉仕活動などを通して集団活動を身につけ、将来、立派な社会人として成長してもらえよう子どもの育成に取り組んでいる。

健康で魅力ある生涯スポーツ社会の実現をめざす体系図



4. 今後目指すべきポイント

スポーツに親しむことを通じて、個性豊かで活力に満ちた地域の実現を図る。
身近な地域において、体力や年齢、目的等に応じてスポーツを気軽に楽しむことができる豊かな環境を整備し、有効活用を図る。
地域スポーツクラブについて検討し、だれもが気軽にスポーツを親しむ環境を実現する。
地域の人々が指導者になれるような人材育成の支援と方法を確立する。

スポーツ活動を支える新たな仕組みづくり(案)

大垣市では、市をはじめ体育連盟、連合体育振興会、校区体育振興会が中心となって、日常的にスポーツに親しむことができる環境づくりや、市民スポーツの風土づくりを目指して、地域スポーツの活性化を図り、着実に成果を上げてきました。

特に、校区体育振興会を軸として、それぞれの地域におけるスポーツ活動を地域の特色を生かしつつ展開してきましたが、校区体育振興会が設立されて30年近くが経過し、地区の規模や活動内容に地域差が出てきています。

一人ひとりのスポーツ・運動欲求の多様化から、「校区体育振興会」を子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々（初心者からトップレベルまで）が、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるような「地域スポーツクラブ」に移行し、地域で、自主的・主体的に運営される「地域スポーツクラブ」の設立を検討しています。

5 芸術文化分野

1. 芸術文化分野における取り組みについて

大垣市は、大垣城の城下町として栄え、藩主戸田氏の文教政策により、文化的土壌が醸成され、洋楽・邦楽・美術・文芸・生活文化等あらゆる分野で活動を展開する芸術文化団体が数多くあります。

芸術文化活動は、それぞれの団体での活動に限られることが多く、団体の垣根を超えた連携が必要となったため、洋楽・邦楽・美術などの14の文化協会と115の文化団体が一体となって、大垣地域における文化活動の啓発・育成に努め、市民文化の振興に寄与するため、昭和56年11月に「大垣市文化連盟」が設立されました。

大垣市文化連盟は、大垣地域の文化振興を目的に、文化活動の育成、各種講演会や文化団体の行う文化行事への協力など、さまざまな文化的事業への支援をしてきました。

特に、地域の芸術文化の振興に貢献した人の表彰や団体間の連携を図る事業など積極的に行っています。

また、市民の芸術文化に対する関心が「観る」ことから、市民自らが「参加する」形態へと変化し、その範囲も広がりを見せるなか、文化環境の整備を図り民間活動の導入と文化事業を効果的に進めるため、平成6年4月に財団法人大垣市文化事業団を設立しました。

現在、財団法人大垣市文化事業団は、自主事業をはじめ、市からの受託事業、指定管理事業など、優れた芸術文化を広く市民に提供し、地域に根ざした芸術文化の振興に取り組んでいます。特に、大垣音楽祭や夏休み企画展、市民創作劇など、身近に感じられる文化活動を通じて、市民の文化活動の振興を図っています。

今後は、大垣市文化連盟と財団法人大垣市文化事業団が協働で、大垣地域における芸術文化の振興・発展を図り、教育尊重の伝統を次代に伝えていくような施策を、包括的に取り組んでいく必要があります。

芸術文化は人々の創造性を育み、その表現力を高め、感動や生きる喜びをもたらすとともに、こころ豊かな生活を実現する上で、不可欠なものです。内閣府の「国民生活に関する世論調査」でも、国民の6割が「こころの豊かさ」を求めており、人々にゆとりと潤いをもたらす芸術文化の果たすべき役割は大きく、市民の関心はますます高まっています。

市民のだれもが暮らしの中で質の高い芸術文化に触れ、豊かな感性と創造性を育むことができるよう、文化のかおり高いまちを目指して、芸術文化事業の推進や芸術文化環境の充実に努めるとともに、市内の文化施設等を拠点とし、市民が芸術文化に親しみ、発表できる機会を充実していくことが求められます。

特に、子どものときから芸術文化に触れる機会を増やし、感性や情操を培い、豊かな人間性と多様な個性を育てていく必要があります。

国民生活に関する世論調査：内閣府（平成20年6月12日～29日）実施

目的：現在の生活や今後の生活についての意識、家族・家庭についての意識など、国民の生活に関する意識や要望を種々の観点でとらえ、広く行政一般の基礎資料とする。

結果：今後の生活について 「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合が62.6%

2. 主な施策

(施策1) 芸術文化事業の推進

- 市民のだれもが暮らしの中で質の高い芸術文化に触れ、豊かな感性と創造性を育むため、俳句事業など特色ある芸術文化事業の充実、各種芸術文化情報の提供を行い、地域文化の振興を図っています。しかし、市民の芸術文化事業に対するニーズが多様化してきており、事業の企画内容が反映しにくくなっています。
- 大垣の地は、俳聖松尾芭蕉が四度訪れたほど、俳諧が盛んな地域でした。とりわけ、三度目の訪問に当たる『奥の細道紀行』では、大垣をむすびの地を選んでいきます。奥の細道紀行300年を記念して、「奥の細道大垣サミット」の開催（昭和63年度）と「全国俳句大会」（平成6年度からは芭蕉蛤塚忌に名称変更）の開催を機に、俳句を通じた様々なまちづくりを展開しています。

☞ 特色ある芸術文化事業の充実

芭蕉蛤塚忌全国俳句大会投句者数

	H16	H17	H18	H19	H20
投句者数	22,022人	13,757人	15,096人	14,669人	16,564人

(施策2) 芸術文化環境の充実

- 感動や喜びをもたらす、生活や心を豊かにするために、芸術文化団体の活動支援、芸術文化施設の活用環境や発表機会の充実などを進めています。
しかし、市民のニーズは年々高度化・多様化しており、時代に即した施設として利活用が図れるよう施設の改修が必要です。

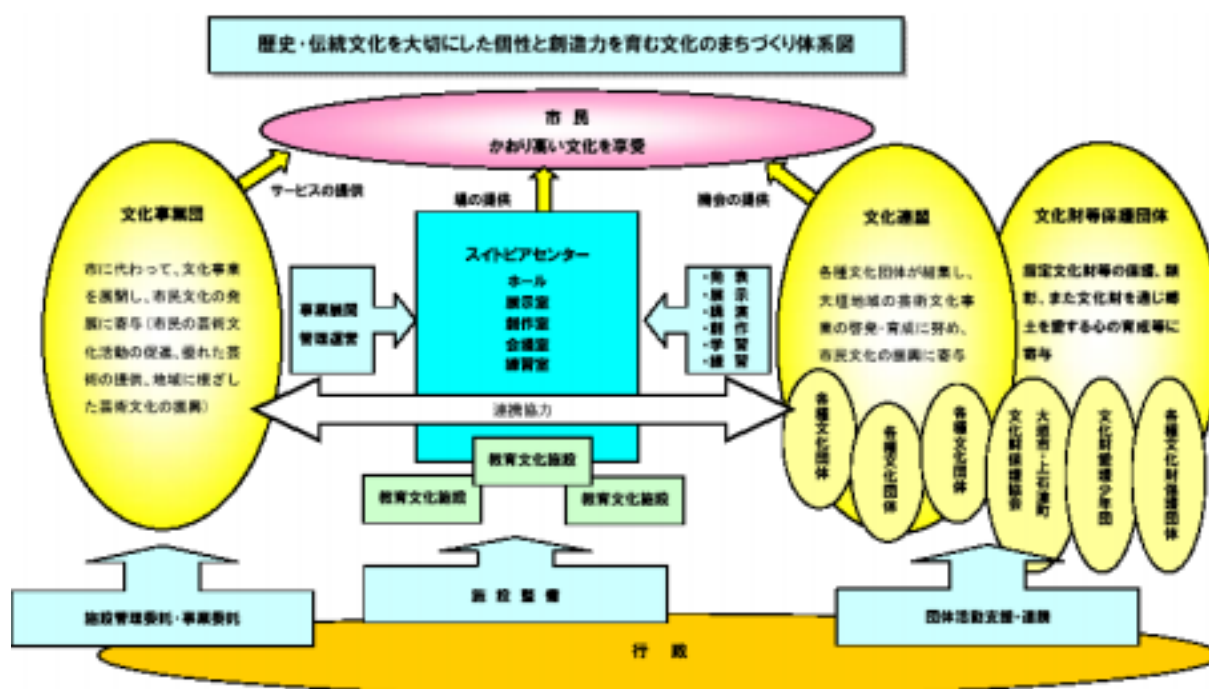
☞ 芸術文化施設の改善・充実

文化会館入場者数及び利用者数

	H16	H17	H18	H19	H20
入場者数	204,116人	163,321人	130,878人	170,036人	162,823人

3. 芸術文化活動を支える主な団体と仕組み

組織名	内容
大垣市文化連盟	大垣地域における芸術文化活動の啓発・振興に努め、市民文化の向上を図っている。
財団法人大垣市文化事業団	市民の自主的で、個性的な芸術文化活動を助長するとともに優れた芸術文化を広く市民に提供するとともに、各教育文化施設の管理・運営を通して地域に根ざした芸術文化の振興を図っている。



4. 今後目指すべきポイント

市民のだれもが暮らしの中で質の高い芸術文化に触れ、豊かな感性と創造性を育む、文化のかけがえのないまちを創造する。

芸術文化に触れる感動や楽しさを子どもたちに伝え、その感性を刺激することで豊かな人間性と多様な個性を育む機会を創出する。

文化施設の充実を図るとともに、文化施設を拠点とし、市民が芸術文化に親しみ、発表できる機会を創出する。

6 文化財分野

1. 文化財分野における取り組みについて

文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた市民共有のかけがえのない財産であり、次代の人々に引き継いでいかなければなりません。

大垣市には、岐阜県で最大の前方後円墳で、古墳時代中期では東海地方最大級の古墳として知られる「国史跡昼飯大塚古墳」があります。

昼飯大塚古墳は、約1600年前に築かれ、墳丘規模、埴輪や様々な出土品にみる葬送の実態、竪穴式石室や粘土槨などから、東海地方の古墳時代の政治、社会を考える上でも極めて重要な古墳で、平成12年9月に国の史跡に指定されました。

市には他にも桑原家住宅・旧揖斐川橋梁など10件の国指定文化財があります。なかでも、大垣市の文化財分野における新時代を開いたのは、約1300年前の奈良時代に聖武天皇の勅願により鎮護国家のために建立された「国史跡美濃国分寺跡」の調査と整備です。

大正10年3月に国の指定史跡となった美濃国分寺跡は、昭和43年から発掘調査を開始し、その遺構を後世に残していくために、昭和56年に史跡公園として全国でも例を見ない、ほぼかつての伽藍の大きさを整備された、市が全国に誇りうる史跡です。

このように昼飯大塚古墳・美濃国分寺跡とともに国の史跡に指定され、重要な文化財として高く評価されていることから、市では長年にわたり学術的な調査を実施して保護・保存と活用につとめています。

また、大垣祭りをはじめ、受け継がれてきた郷土の祭りや文化、伝統行事等が数多くあり、これらの伝統文化を通じて、市民のふるさと意識を高めるとともに、これらを誇りとしてまちを愛する心を育てるため、伝統芸能や行事等の保存活動などを進めていく必要があります。

平成15年度から編集作業を進めている大垣市史編纂事業は、大垣のルーツをひも解き、大垣のなんたるかを知る極めて重要な作業です。大垣市史の刊行はもとより、編集作業で収集した膨大な資料やデータを有効に活用できるよう体系的な整備が必要です。

大垣の歴史をさらに解明していくためには、継続した調査研究ができる体制の確立も大切なことです。

平成21年度末現在、市には国、県、市が指定する文化財が208件あり、地域の歴史を考える資料として有効活用していくことが重要です。また、古くから郷土に受け継がれている文化財や伝統芸能に対する意識を深め、大切に保存・育成し、後世に継承するため、文化財の保存と活用、伝統文化の継承や文化的景観の保全、文化財愛護意識の高揚に努めていく必要があります。

2. 主な施策

(施策1) 文化財の保護

○文化施設の活用、指定文化財や埋蔵文化財の保護、伝統芸能等の保存活動の支援などにより、貴重な文化財の保存と活用に取り組んでいます。しかし、文化施設は建設から相当の年数が経過しており、改修が必要な時期となっています。また、未整備や未調査の文化財もあり、その対応が必要です。

☞ 文化財の保存と活用、伝統文化の継承

指定文化財件数

	H16	H17	H18	H19	H20
国指定	7	7	9	9	10
県指定	27	27	37	37	37
市指定	121	121	161	163	162

国指定文化財一覧

種目(種別)	名称	所在地	指定等年月日
重要文化財 (建造物)	桑原家住宅	上石津町一之瀬	S46. 12. 28 S60. 5. 18 追 H 7. 6. 27 追
	旧揖斐川橋梁	新開町	H20. 12. 2
重要文化財 (彫刻)	木造薬師如来坐像	青野町(美濃国分寺)	T 3. 8. 25
	木造聖観音立像	青墓町(円興寺)	T 3. 8. 25
	木造地藏菩薩半跏像	赤坂町(明星輪寺)	T14. 4. 24
重要文化財 (工芸品)	太刀 銘正恒 附糸巻太刀拵	大村	T 2. 4. 14
	梵鐘(弘安祈願の鐘)	青柳町(徳勝寺)	S39. 1. 28
史跡	美濃国分寺跡	青野町八反田 丸山	T10. 3. 3 S46. 7. 22 追 S49. 5. 22 追
	昼飯大塚古墳	昼飯町字大塚	H12. 9. 6
天然記念物	一之瀬のホンシャクナゲ群落	上石津町一之瀬	S 6. 7. 31

歴史民俗資料館入場者数

	H 1 6	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0
入 場 者 数	5,912 人	7,538 人	16,185 人	8,503 人	11,098 人

(施策2) 文化財愛護意識の高揚

○文化財愛護団体の育成、文化財や郷土の先人を学習する機会の充実、市史編纂の推進などにより、郷土大垣を愛する意識を醸成しています。しかし、今後さらに文化施設での学習機会の充実などにより、子どもたちや市民に文化財を保護する意識を幅広く継続的に働きかけを行っていく必要があります。

☞ 文化財愛護意識の高揚

親子体験教室（昼飯大塚古墳の模型をつくろう）参加者数

	H 1 6	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0
参 加 者 数	31 人	58 人	38 人	23 人	30 人

(施策3) 文化資源等の顕彰と活用

○また、歴代藩主の文教奨励の風土から飯沼慾斎、江馬蘭斎、梁川星巖など、わが国の歴史に足跡を記した文人等や、明治に入り数多くの博士や鉄道人を大垣から輩出してきました。こうした文化的な先人、先賢等を大垣市の貴重な文化遺産、資産として顕彰し、後世に継承してことは、文教都市として大切なことです。

○大垣には、全国的にも貴重な化石や、輪中など、文化的な資産が多くあります。こうした文化資源を研究者や市民団体等と連携し、保存、調査研究、活用等に努めていく必要があります。

☞ 先人・先賢の顕彰

☞ 固有の文化資源等の保存、調査研究、活用等

3. 文化財保護活動を支える主な団体

組 織 名	内 容
大垣市文化財保護協会 上石津町文化財保護協会	大垣市民の文化の向上に資するため、市に所在する文化財の保護・顕彰および活用に努めるとともに、会員相互の交流や研鑽を図っている。
文化財等保護団体	市等の指定文化財の保護活動や啓発活動、また民俗芸能等の後継者育成活動などを行っている。
文化財愛護少年団	子どもたちを対象に、郷土の文化財を通して、先人の築いた歴史や文化を理解し、郷土を愛する心を育てるとともに、協調性、社会性を養う活動をしている。

4. 今後目指すべきポイント

指定文化財や埋蔵文化財保護事業の推進、文化施設の充実などにより、文化財の保存と活用を図る。

伝統芸能や伝統行事の調査と保存活動の支援などにより、伝統文化の継承を図る。

文化財愛護団体の育成や活性化、また郷土の文化財や先人を学習する機会の充実などにより、文化財愛護意識の高揚を図る。

市史編纂事業を推進するとともに、継続した調査研究に努める。

文化的な遺産、資産の活用と普及を図る。

先人、先賢の残した偉業を顕彰し、後世に継承する。

奥の細道むすびの地周辺整備計画(案)

中心市街地の活性化に向け、文化のかおり高い大垣の個性を生かし、大垣市の歴史と文化が息づく船町・美濃路界限で、俳聖松尾芭蕉が奥の細道紀行を終えたむすびの地周辺に「憩いと賑わいの空間」を整備するため、平成20年9月に策定した「奥の細道むすびの地周辺整備構想」に基づき、『(仮称) 奥の細道むすびの地記念館』の整備を進めています。

【整備内容】

- ・ 芭蕉館の整備
- ・ 先賢館の整備
- ・ 観光交流館の整備
- ・ 無何有荘大醒木射の復元 ほか



7 教育行政分野

1. 教育行政分野における取り組みについて

大垣市教育委員会は、昭和23年7月15日に教育委員会法が公布されたことから、文教尊重の精神を発揮し、他都市に先んじて岐阜県下初の設置議決を果たして、昭和23年11月に発足しました。

以来、今日まで文教都市大垣の歴史と伝統に根ざした教育尊重の文教施策を展開し、教育のまちづくりを進めてきました。

大垣市の教育行政の歩みは、時代の変遷の中で、社会情勢に柔軟に対応するため発足以来、廃止や組織改編を繰り返してきました。

なかでも、平成14年4月に教育部・文化部を廃止し事務局に一本化して以降、地方分権時代における教育行政のあり方を検討しながら、組織改編しています。

教育委員会事務局の組織改編の経緯

事務局の組織改編等	
昭和	
23年 11月	教育委員会事務局設置（学務課、指導課、調査統計課、社会教育課）
27年 4月	学務課、指導課、調査統計課を総務課、学校教育課に改称
41年 4月	保健体育課設置（社会教育課から分離）
48年 5月	総務課を庶務課に改称
51年 4月	教育研究所設置
平成	
3年 4月	教育部（庶務課、学校教育課、保健体育課）、文化部（学習課、文化振興課、青少年女性課）
10年 4月	学習課と青少年女性課が統合し、生涯学習課に改称
14年 4月	教育部・文化部を廃止し、事務局に一本化
16年 4月	幼稚園事務を福祉部子育て支援課に移行（補助執行）、市史編纂室設置
18年 3月	上石津地域教育事務所、墨俣地域教育事務所を設置（上石津町、墨俣町と市町村合併）
19年 4月	社会教育スポーツ課（生涯学習課から生涯学習分野をかがやき推進部へ移行し、保健体育課と統合）
21年 4月	少年補導センターを廃止し、教育研究所と統合し、教育総合研究所に改称

特に、近年の生涯学習社会への進展や幼児教育・保育の一体化をめざした幼保一元化の流れのなかで、平成16年4月には、教育委員会から幼稚園事務が福祉部の子育て支援課（平成20年4月から子育て支援部に改正）に移行しました。

平成19年4月からは、社会教育課の生涯学習部門をかがやきライフ推進部の市民活動推進課へ移行し、その結果、社会教育部門は、青少年育成と家庭教育、人権教育が残り、保健体育課と統合し、社会教育スポーツ課となりました。社会教育と生涯学習の関係や、公民館と地区センターの関係など、整合や調整を図る必要が生じています。

また、少年補導センターの少年支援という機能を教育研究所と統合し、教育総合研究所として、従来の教育研究機能、教育情報機能、相談機能とあわせて、体制強化を図ることができました。

教育委員会の所掌事務については、地方行政の組織および運営に関する法律により定められているところですが、地方分権、規制緩和等の動きを受けて、社会教育部門を市長部局に移行する自治体が増えるなか、教育委員会としての機能や役割を明確にし、教育委員会の活性化を図っていく必要があります。

2. 主な施策

(施策1) 教育行政の推進

○歴史と文化を育む「文教のまち大垣」をめざして、豊かな人間性を育むための学校教育の推進、社会教育・スポーツ・文化の振興など、幅広い分野にわたる教育行政を一体的に進めています。現在、社会が急速な変化を遂げる中、大垣市における教育を取り巻く環境も変わりつつあります。このため、教育の在り方を見直すとともに、大垣の歴史・文化を、教育を通じて次代に伝え、より豊かなものに発展させ、子どもたちが未来に夢を抱き、かおり高い「文教のまち大垣」を築いていけるような体制を構築していく必要があります。

☞ 大垣市教育の振興・発展を、学校・家庭・地域が連携し、実現する施策の展開

3. 今後目指すべきポイント

大垣市教育のあるべき姿を明確にし、具現化するための施策を展開する。

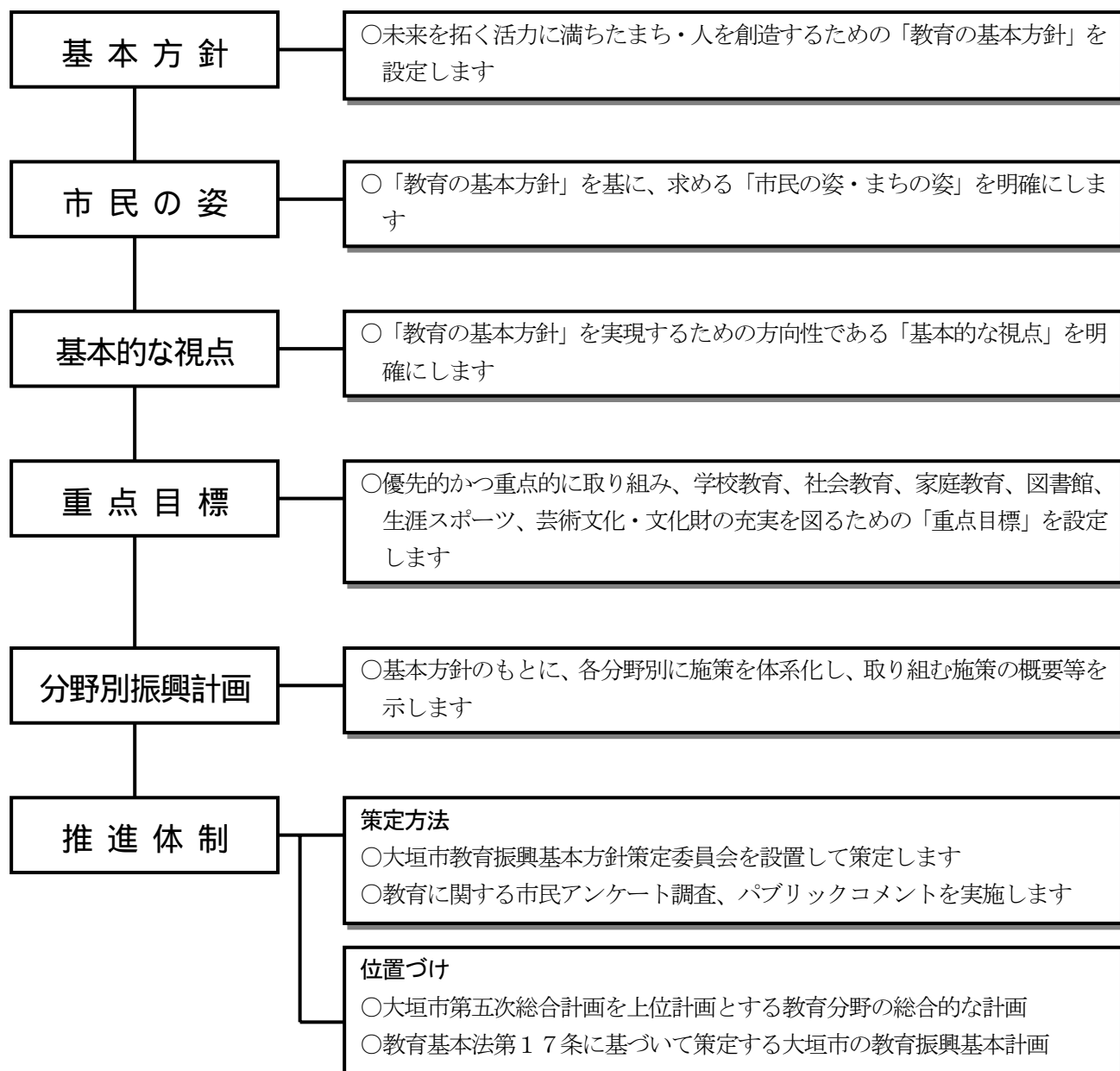
教育の抱える諸問題に対応するための組織体制を充実する。

「開かれた教育委員会」を目指し、その透明度を一層高めるため、市民に対して教育に関する情報提供に努める。

教育に対する要望を的確に把握した教育行政を推進するため、市民ニーズや意見を幅広く聴取できる仕組みを構築する。

第4章 大垣市教育振興基本方針

1. 基本方針の骨子



2. 基本方針

- 大垣市は、伊吹山系と揖斐川水系のもつ美しい自然に恵まれ、歴史と文化、産業の伝統を受け継ぎ、潤いに満ちたまちです。
- 古来、東西交通の要衝の地として繁栄し、戸田公十萬石の城下町として、また、西美濃地域の中心地として、固有の歴史や文化を培ってきました。
- とりわけ、歴代藩主による文教を重んじる風土が、数多くの先人先賢を輩出し、今日の文化の薫り高い文教都市としての礎を築いてきました。
- また、近年では、交通の利便性や、豊富な地下水を活かして東海地区有数の内陸型工業地域として、県下第二の都市として発展し、今日では情報産業都市として飛躍を遂げつつあります。
- 平成18年3月には、上石津町・墨俣町と合併し、東は長良川に接し、西は緑豊かな山里を市域に加え、『新生・大垣市』として新しい歴史の第一歩を踏み出し、まちづくりに取り組む基本的な考え方や『まちづくりの構想』などを示す大垣市第五次総合計画を策定しました。
- 特に、「地域活性化」、「子育て日本一」、「市民協働」、「安全・安心」、「自立・安定」の5つの政策目標を重点的に取り組み、魅力と活力にあふれる、新しいまちづくりを進めています。
- とりわけ、まちづくりはひとづくりにあり、ひとづくりの根幹をなす「教育」こそ、明るく豊かで活力あふれる健全な社会を構築していくために、欠かせないものです。
- また、21世紀を生きる私たちは、受け継がれてきた歴史、文化、伝統、自然環境等を絶やすことなく、次代につなげていくとともに、未来に飛躍する都市にふさわしい市民文化を創造し、後世に託していく使命があります。
- 私たちすべての市民が連帯し、幅広い知識と教養を身につけ、豊かな情操と創造性を培い、伝統と文化を尊重し、郷土愛を育み、21世紀を切り拓く豊かな人間性を育成する教育を確立していかなければなりません。
- そこで、10年先を見通した教育理念を構築し、すべての市民がふれあい、そして学びあいながら、それぞれが創りあげてきた文化を深めあっていける、新たな「文教のまち大垣」をめざして、本市の教育振興基本方針を明確にします。

求める教育の姿

ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣

3. 市民の姿

- 教育は、市民が社会の一員としてふさわしい人間形成をするために、生涯にわたる成長過程に応じた時や場の中で、必要な知識や技能を見につけるとともに、心身ともに健康で健全な人間育成と個人の人格の形成を図るものであるといえます。
- いいかえれば、教育は、市民一人ひとりが自己に応じた生きる力を育むためのものであるといえます。
- 大垣市が求める教育の姿である『ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣』を実現するため、次のような市民であられるまちをめざします。

【求める市民・まちの姿】

学びへの意欲と奉仕の心をもつ人であられるまち

- 生涯にわたって学びへの意欲をもち続けることは、人生を輝かせるもっとも大きな要因の一つだといえます。
- そのためには生涯にわたって、だれもがいつでもどこでも学ぶことのできる環境を整えることが大切です。
- そして、学んだことや自分にできることを地域や社会に還元したり、互いに支え合ったりする奉仕の心を醸成することが求められます。
- ☞ 学びへの意欲と奉仕の心をもつ市民であられるまちをめざします。

かおり高い文化と郷土を愛する人であられるまち

- 人が人としてこころ豊かに生きていくために、文化は欠かせないものです。
- 連綿と受け継がれてきた郷土の伝統・文化を大切に次代に継承していくとともに、地域の新しい文化を創りだす土壌・風土を培い、市民生活をより豊かなものに発展させていくことが求められます。
- ☞ そうした土壌・風土の中で、かおり高い文化と郷土を愛する人であられるまちをめざします。

こころ豊かでたくましく生きる子どもであられるまち

- 明るく元気な子どもがあふれたまちは、活力に満ちたまちでもあります。
- 子どもたちが明るく元気でたくましく育つため環境を整えるとともに、子どもの健全な育成を図ることができる社会を求めていかなければなりません。
- ☞ 家庭や、学校、地域で、こころ豊かでたくましく生きる子どもであられるまちをめざします。

スポーツや体験活動等を通して健康な人であられるまち

- 生涯にわたっていきいきとした人生を送るには、健康がなによりも大切です。
- すべての市民が、明るく健康な市民生活が送れるよう、いつでもどこでも気軽にスポーツや体験活動等に親しむことができる生涯スポーツ社会をめざしていくことが求められます。
- ☞ スポーツや体験活動等を通して健康な人であられるまちをめざします。

4. 基本的な視点

- まちづくりの根本は教育にあります。21世紀に大きく飛躍する大垣のまちづくりを実現するために、教育に課せられた使命は極めて大きいものがあります。
- 教育が求める姿である『ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣』を具現化するにあたり、「ひとづくり」「文化の創造」「こどもの育成」の3つの基本的な視点を大切にしていけます。

【3つの視点】

ひとづくりの視点

- 教育はひとづくりです。すべての分野でひとづくりの視点を大切にします。
- 先人が長年にわたり築いてきた郷土の豊かな歴史とかおり高い文化、活力ある産業の伝統を大切に受け継ぎ、後世に託していくとともに、未来に向かって新たなことに挑戦するエネルギーにあふれた活力に満ちたまちを創造するため、全ての市民が生きがいをもって主体的に生きる人をつくることをめざします。

☞ 郷土の歴史と文化、産業の伝統を受け継ぎ、未来を拓く人をつくる

文化の創造の視点

- 文化は人の心に潤いや活力を与えてくれます。すべての分野で、文化を創造する視点を大切にします。
- 活力あるまちを創造するため、かつて博士の町といわれるほど、多くの文人・学者を輩出してきた伝統や風土が、今日までの文化度の高い文教都市を創り上げてきたことに思いをはせ、それぞれの地域の人が地域に誇りをもち、地域の人が連携して新しいまちの新たな文化を創造していくことをめざします。

☞ 地域に誇りをもち、地域の人が連携協力して新たな文化をつくる

子どもの育成の視点

- こころ豊かでたくましい子どもを育成することは、だれしものが望むところです。すべての分野で子どもを育成する視点を大切にします。
- 子どもが自分の将来に夢を抱き、それを実現しようと志を高くしてひたむきに努力する子どもを育むために、家庭と地域が一体となり、学校を支える協働社会を築くことをめざします。

☞ 子どもが未来に夢を抱き、実現していく力を育てる

5. 重点目標と分野別振興計画

1. 優先的かつ重点的に取り組み、教育の充実を図るための目標

- 大垣市の教育振興基本方針である『ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣』をめざして、先人が築き上げてきた郷土の歴史と文化と産業の伝統を受け継ぎ、未来に拓く、活力にみちたまちを創造し、主体的に生きる人を創っていくために、6つの教育の重点目標を掲げ、その実現を図ります。

(1) 学校教育の振興

『学校は新しい学びの創造に努め、「学びの喜び」がもてる子どもを育むことをめざします』

- 学校は、新しい学びとの出会いの場であり、人間形成の基礎を築く極めて重要な役割を担っています。
- 確かな学力の定着を図り、豊かな人間性を育み、健やかな体をつくり、生涯を通して学習していく基礎を築くため、新しい学びの創造に努めます。
- そのため学校の伝統や風土、地域の特性に即した特色ある学習活動や学校環境の整備に努めるとともに、開かれた学校運営に努めます。
- 子どもたちと向き合う時間を確保し、常に質の高い教育を提供できるように、教員に広く深い研修の機会と場を提供できるようにし、教員はその機会を自ら求めて研究と修養に努めます。
- 学級・学習集団づくりが教育環境の基盤と考え、集団が生み出す「みんなで学ぶ、みんなに学ぶ」という教育力を活かし、子どものやる気を高め、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の「知・徳・体」調和の取れた『ひたむきに生きる力を育む教育』を進め、学ぶ喜びのもてる子どもを育みます。

(仮称)大垣市学校教育振興計画

【主要な項目】

○学校教育活動の充実

- ・学習効果の高い取り組み（小学校高学年教科担任制の導入等）を工夫するとともに、保幼・小・中一貫性のある教育を推進します
- ・一人ひとりに応じた教育を充実するため、体系的、組織的に取り組みます
- ・学校や地域の特性を生かして、豊かな人間性の醸成を図ります

○地域に開かれた学校運営の推進

- ・家庭や地域と協働した学校運営を推進します
- ・地域ぐるみによる学校支援体制を構築します

○教員の資質向上

- ・実践的能力を備えた質の高い教員をめざします

○学校環境の整備

- ・安全・安心、環境に配慮した快適な学校環境の整備に努めます
- ・児童生徒に望ましい教育環境の整備に努めます

(2)社会教育の振興(生涯学習の推進)

『市民一人ひとりが生きがいをもって活動できるかおり高い文教のまちを築きます』

- 市民のもつ能力を引き出し、まちづくりに活用するとともに、子育て支援をはじめとするボランティア活動や芸術活動、スポーツなどの活動を通して人々の交流を深めることで、市民の生きがいや自信を創出します。
- まちを歩きながらまちの魅力を再発見し、市民の地域愛を高めるとともに、まちへの自信を創出します。大垣市の個性である「水」を活用するとともに、「緑」を増やすことで、まちに潤いを創出します。地域の歴史や文化に親しむことでまちへの愛着を創出します。
- まちの賑わいの創出、新たな産業の振興や職業能力の育成、全国への情報発信によって、まちの活力を高めます。

(仮称)大垣市かがやきライフ推進基本計画

【主要な項目】

○学習機会の充実

- ・各種講座や推進体制の整備、セミナー等の開催などにより、学習機会の充実をすすめます
- ・地区センター等、地域における社会教育・生涯学習の充実をすすめます

○かがやきライフ活動の支援

- ・各種団体等の支援、参加型事業の実施などにより、かがやきライフ活動の支援をすすめます

○かがやきライフ情報の提供

- ・多様なメディアによる情報提供などにより、かがやきライフ情報の提供をすすめます

○活動施設の整備・充実

- ・生涯学習施設やスポーツ施設の改修などにより、活動施設の整備・充実をすすめます

○市民協働の推進

- ・市民協働型事業の実施や新体制の整備などにより、市民協働の推進をすすめます

(3) 青少年健全育成・家庭教育の推進

『こころ豊かにたくましく生きる子どもを育むため、家庭、学校、地域が協働し、明るく健全な地域社会を築きます』

- 次代を担う子どもは、社会の財産であり、健やかに育つことは誰しもの望みです。子どもが「こころ豊かにたくましく生きていく」ため、奉仕の心や思いやりの心を育て、生命を尊び、自然や郷土を大切にし、社会性や規範意識を身につけるよう家庭、学校、地域が協働して取り組みます。
- 意欲は生きる力の源になります。子どもの意欲を高め、志の高い子どもを育てるため子どもが安心してあそび、学び、活動できる居場所づくりに努めるとともに、子どもを健全に育成するため、市民団体等と協力して取り組みます。
- スポーツ、文化、学習活動等各分野において子どもが主体的に参加したり、関わったりすることができる環境をつくります。
- 家庭は教育の出発点であり、人間形成の基本です。基本的な生活習慣や社会性を身につけるため、幼児期からの教育を大切にし、家庭教育を支援します。
- 地域は明るく健全な社会を築くため、共同体としての絆を強くする必要があります。特に、子どもの育成のため、地域住民や関係団体が互いに協力し、子どもの地域行事への参加や社会体験活動ができるよう、地域における子ども育成活動を積極的に進めます。

(仮称)大垣市青少年健全育成計画

【主要な項目】

○乳幼児期からの教育の充実

- ・子育て日本一のまちをめざし、子育て支援体制を整備します

○健全な青少年を育成

- ・道徳教育の充実、地域社会への奉仕・体験活動、伝統文化の尊重と郷土愛を育成します
- ・子どもの自主的活動を支援し、意欲を喚起し、意欲と志の高い子どもを育てます

○家庭教育の充実

- ・様々な機会を活用した学習や親子のふれあいの場の提供に努めます
- ・家庭教育を支援する人材の育成や支援体制の整備に努めます
- ・相談体制の整備や関係情報の提供に努めます

○学校、家庭、地域が連携し、明るく健全な社会を構築

- ・地域ぐるみにより子どもの健全育成と家庭教育の推進に努めます

(4) 図書館の充実

『暮らしに役立つ市民の図書館をめざします』

- まちづくり、ひとづくりに役立つ「市民の図書館」として、身近なサービス拠点の整備充実に努めます。
- 市民の読書を支援し、知識を広げ、教養を高める「地域の知の拠点」として多様な資料を整備します。
- 暮らしに役立つ図書館をめざし、地域や暮らしの問題解決に必要な様々な資料や情報を提供します。
- 本市の貴重な資料を保存、整備し「文教のまち大垣」の歴史や文化を後世に継承します。
- 子どもが自主的に読書活動を行い、豊かな心を育み、読解力や情報収集し活用する能力を養うことができるよう、図書館、学校、地域が連携を図り、幼児期からの読書環境の整備に努めます。

(仮称)大垣市図書館基本計画

【主要な項目】

○サービス拠点の整備

- ・ 身近な図書館サービスの拠点整備に努めます

○図書館資料の整備充実

- ・ 幅広い年齢層や利用目的に対応した多様な資料や情報を整備します

○市民と協働した図書館サービスの充実

- ・ ボランティアとの協働により様々な図書館活動に取り組みます

(仮称)大垣市子どもの読書活動推進計画

【主要な項目】

○子どもの読書環境の整備

- ・ 幼児期からの読書環境の整備に努めます
- ・ いつでも、どこでも、自由に楽しく読書できる環境整備に努めます

(5)生涯スポーツの振興

『健康で魅力ある生涯スポーツ社会の実現をめざします』

- 学校や地域におけるスポーツ活動を通して、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成し、いつでも身近に親しむことができるスポーツ環境を整備します。
- いつでもだれでも気軽に楽しく参加できるコミュニティスポーツの普及と環境を整備します。
- 子どもから大人まですべての市民が体を動かす場や機会を確保する観点から、地域ぐるみでスポーツができる体制をつくります。
- 国際大会や全国大会で活躍できるトップアスリートを育成します。
- さまざまなスポーツを体験し、運動好き・スポーツ好きな子どもを育成します。
- 地域の人々が指導者になれるよう、専門的な知識などの向上を図る研修を実施し、指導者の育成をします。

(仮称)大垣市スポーツ振興計画

【主要な項目】

○生涯スポーツの振興

- ・コミュニティスポーツの普及に努めます
- ・地域ぐるみでスポーツ活動を支える新たな仕組みづくりをすすめます

○競技スポーツの振興

- ・選手の育成強化を進めるため、小中高一般への一貫した選手の育成指導を図ります

○スポーツ環境の充実

- ・地域における身近なスポーツ環境を整備します

(6) 芸術文化・文化財の振興

『歴史・伝統文化を大切にした個性と創造力を育む文化活動を推進します』

- 文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらし、こころ豊かな生活を実現するために不可欠なものです。
- 豊かな感性と創造性を育む、文化のかおり高いまちを目指して、芸術文化事業や芸術文化環境の充実に努めます。
- 文化施設の充実、伝統文化の継承、文化財愛護意識の高揚などにより、貴重な文化財の保護に努めます。
- とりわけ子どもたちが、学校や教育施設において本物の芸術文化や伝統文化に触れることにより豊かな感性と創造性を育むとともに、大垣の伝統・文化を受け止め継承・発展させるための環境を充実します。

(仮称)大垣市文化振興基本計画

【主要な項目】

○文化・芸術の振興

- ・地域の風土に根ざした文化を創造します
- ・市民活動を主体とした文化活動を推進します

○歴史・伝統文化の保存と活用

- ・指定文化財、埋蔵文化財の保護と学習する機会を充実します
- ・市史編纂事業の推進に努めるとともに、大垣の歴史の調査、研究を継続的にすすめます
- ・大垣固有の文化的資源（化石、輪中文化等）の保存、活用をすすめます

2. 計画的な教育行政の推進

- 教育委員会制度の硬直化等がいわれ、活力ある教育行政の推進、開かれた教育委員会、説明責任を果たす教育委員会等をめざすことが求められています。
- また、各教育分野の振興計画を策定し、それぞれの分野の方針・方向性を明確にするとともに、数値目標等を定め、計画的な教育行政に努める必要があります。

【主要な項目】

- 教育委員会の活性化（開かれた・説明責任を果たす教育委員会）
 - ・保護者や地域との意見交換会を開催します
 - ・教育行政に関する政策評価の実施結果を公表します
- 計画的な教育行政の推進
 - ・地域の意見を施策に反映し、迅速に対応できる組織体制の充実を図ります
 - ・学校教育、生涯学習、文化、スポーツなどの振興を図ります
 - ・本市の教育振興基本方針の具現化を図るため、次の7つの計画を策定し、計画的な教育行政を推進します

(仮称)大垣市学校教育振興計画

(仮称)大垣市かがやきライフ推進基本計画

(仮称)大垣市青少年健全育成計画

(仮称)大垣市図書館基本計画

(仮称)大垣市子どもの読書活動推進計画

(仮称)大垣市スポーツ振興計画

(仮称)大垣市文化振興基本計画

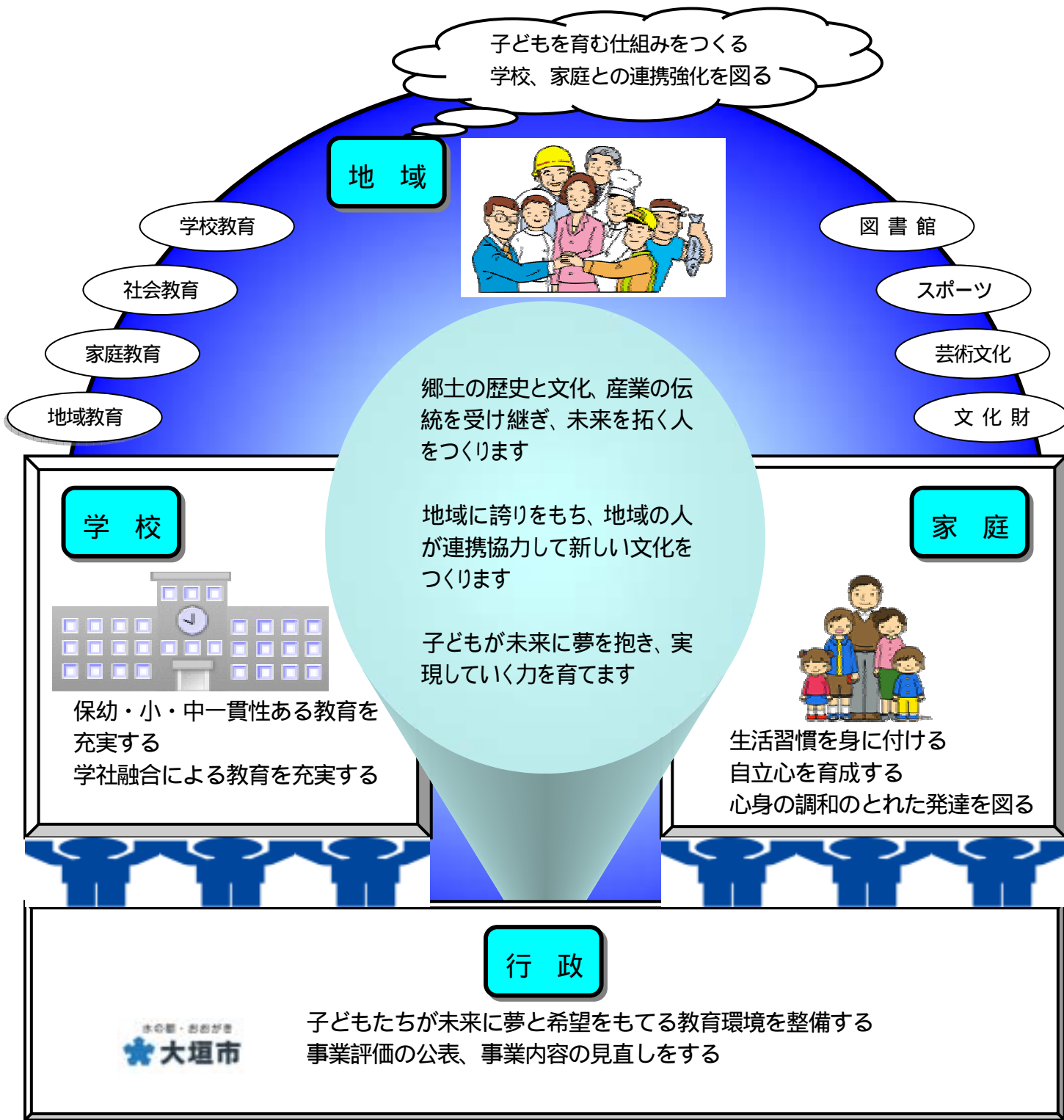
3. 構成



4.イメージ図

大垣市教育振興基本方針

ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣



6. 推進体制

1. 策定方法

- 学識経験者、学校教育・社会教育・青少年育成・体育振興・文化振興・図書館関係者、市民委員（公募）で策定委員会を組織する。
- 施策の立案や実施におけるプロセスの透明性を確保するとともに、幅広い意見を得るため、教育に関する市民アンケート調査、パブリックコメントを実施する。

